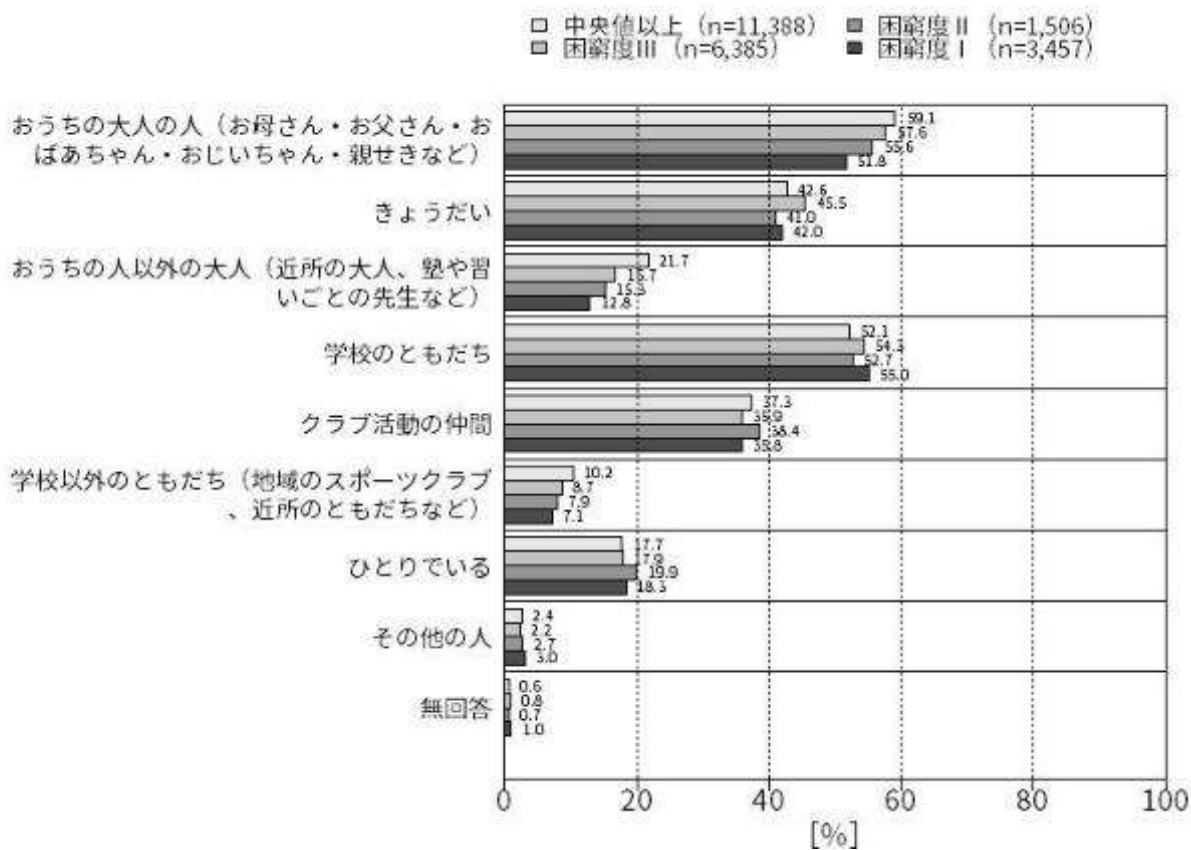


困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

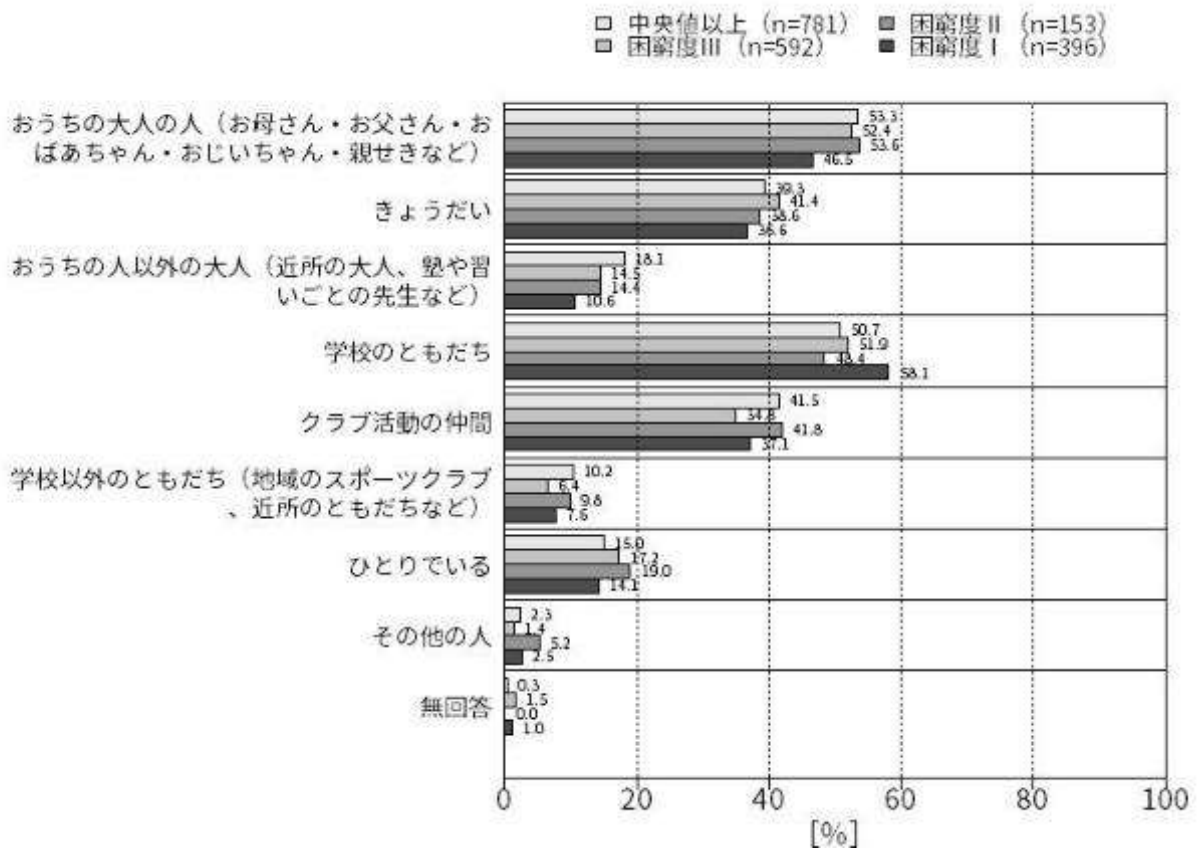
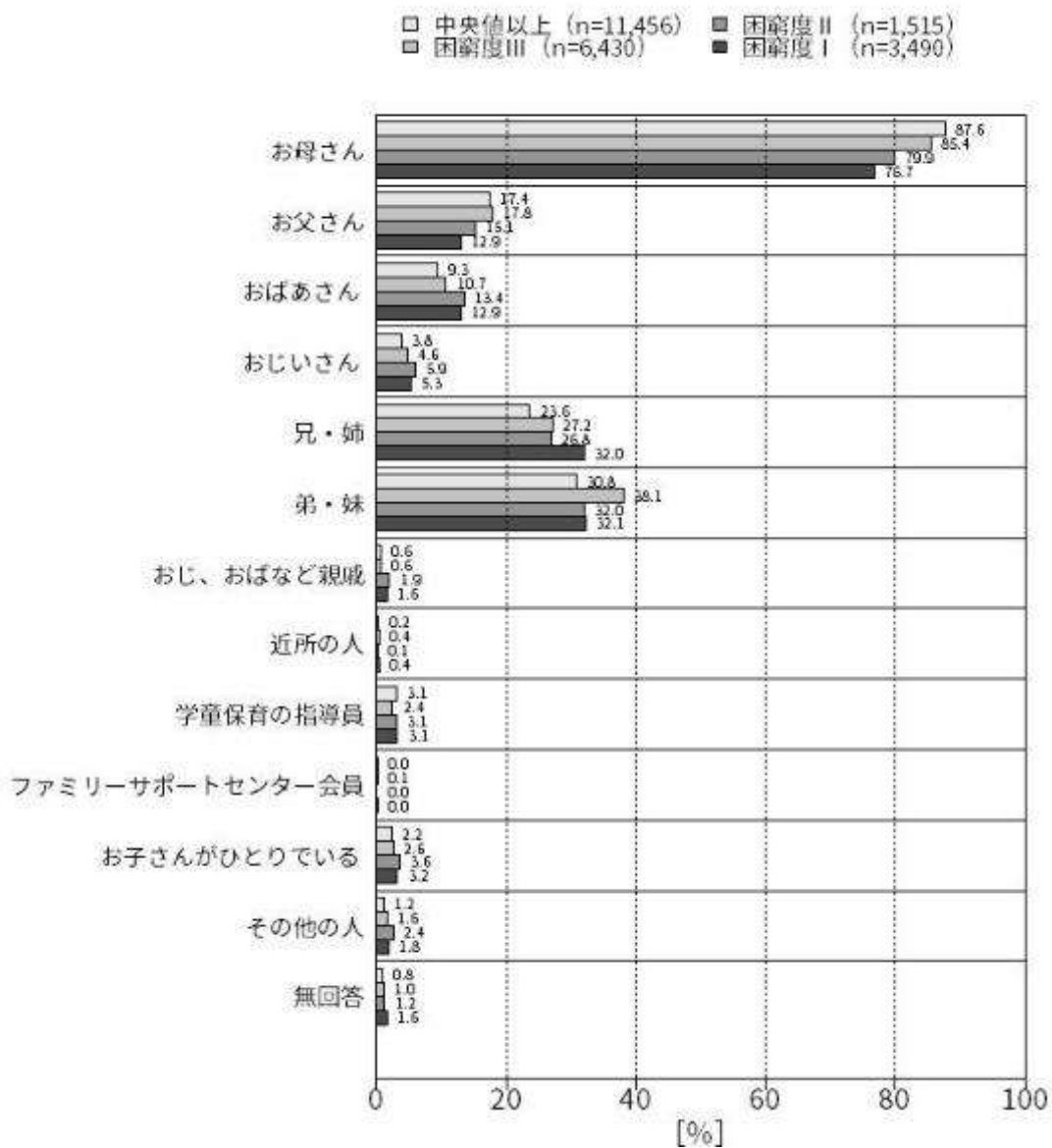


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、困窮度 I 群で高いものは見られなかった。中央値以上群では「おうちの人以外の大人 (近所の大人、塾や習いごとの先生など)」18.1% (困窮度 I 群に対して、1.7 倍)、「学校以外のともだち (地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど)」10.2% (1.3 倍) が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>



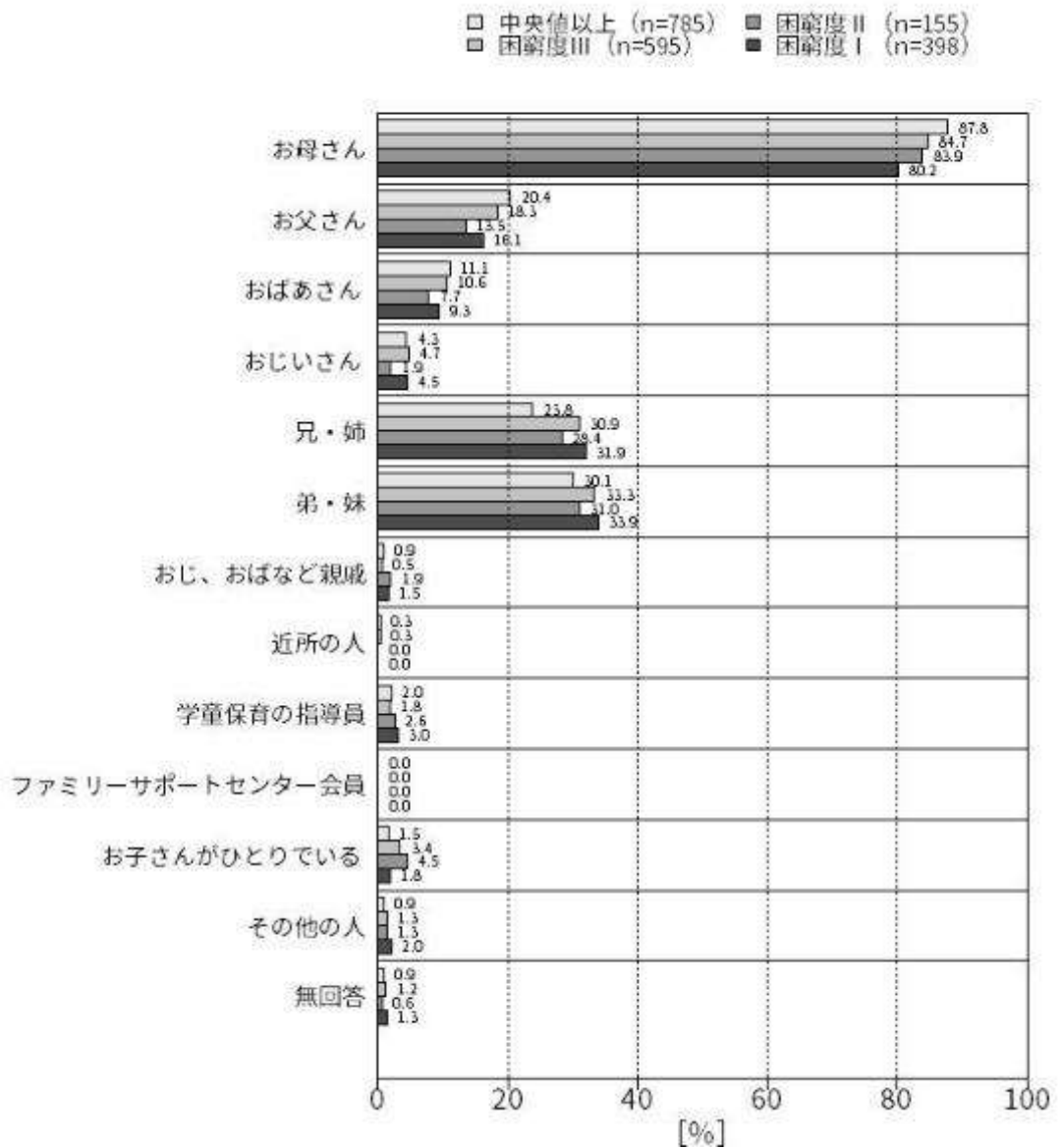
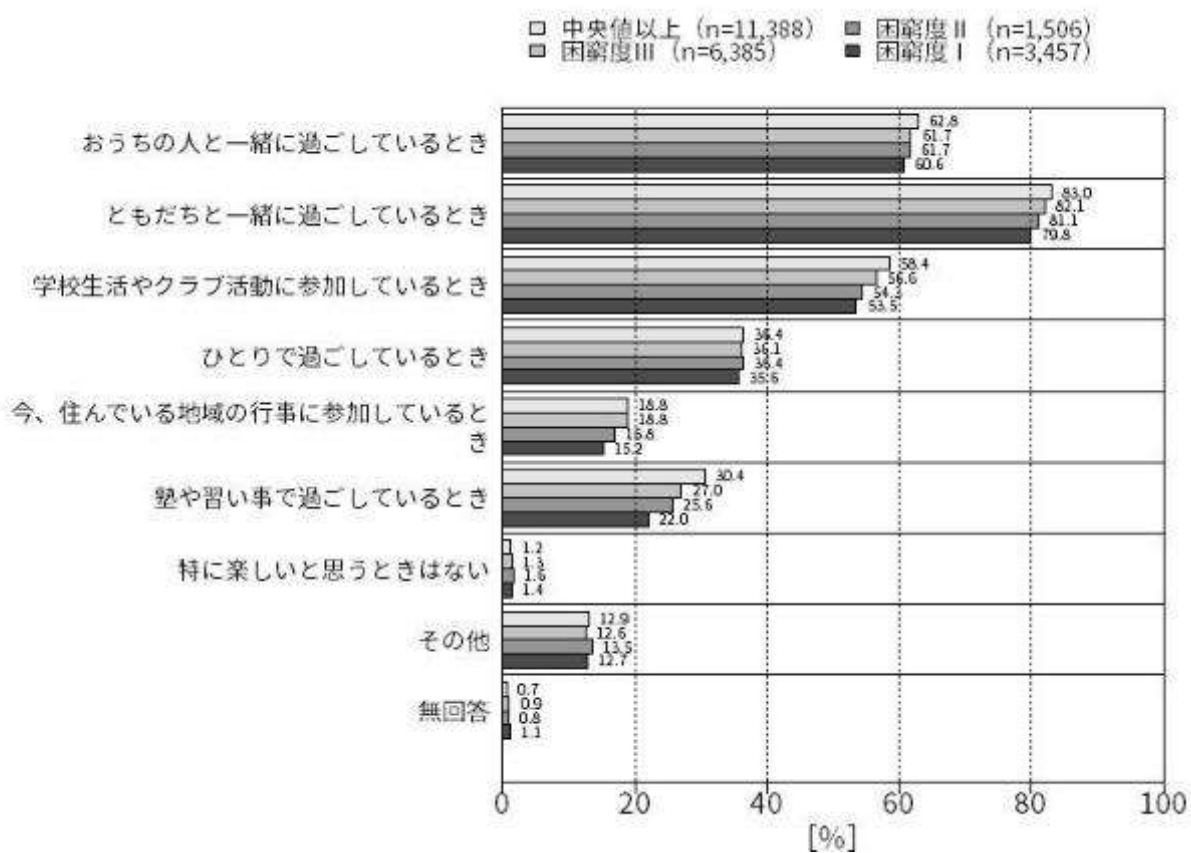


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「その他の人」2%（中央値以上群に対して、2.2 倍）、「おじ、おばなど親戚」1.5%（1.7 倍）、「学童保育の指導員」3%（1.5 倍）となり、困窮度 I 群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問 11）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

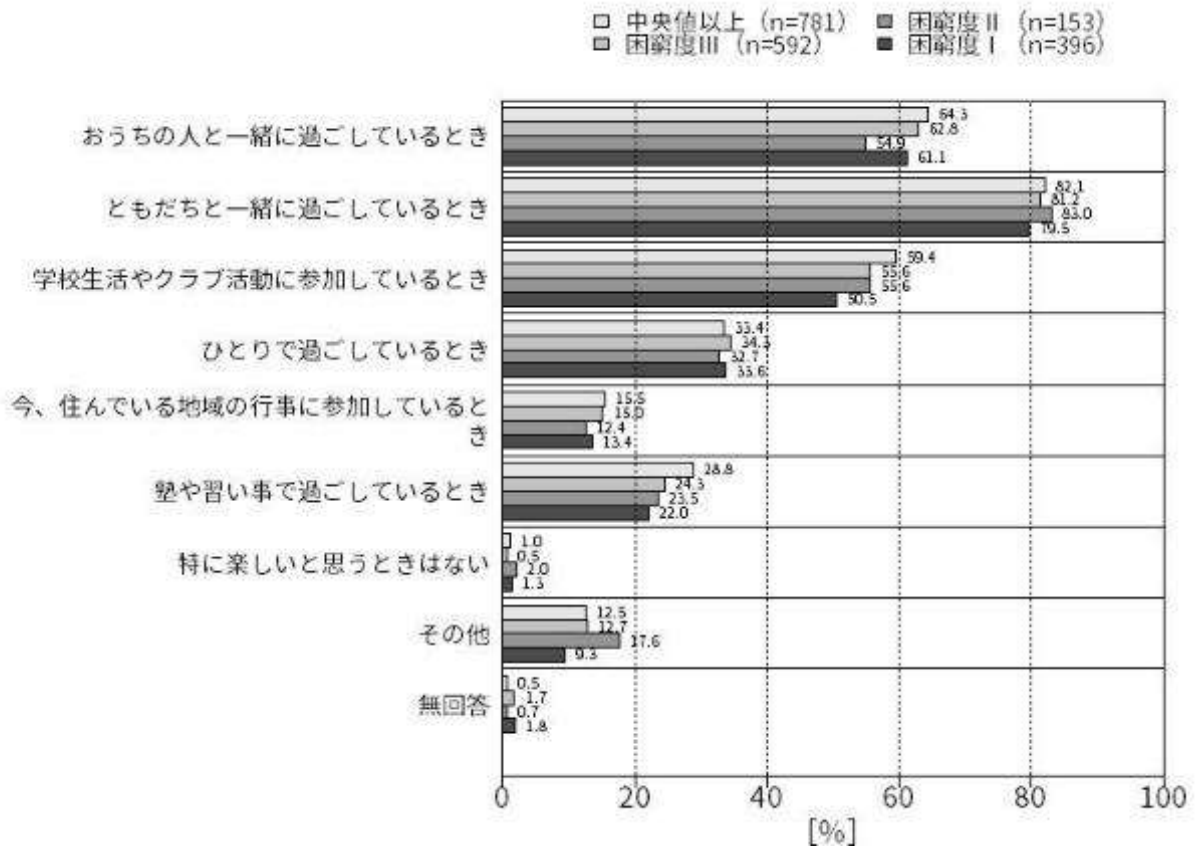
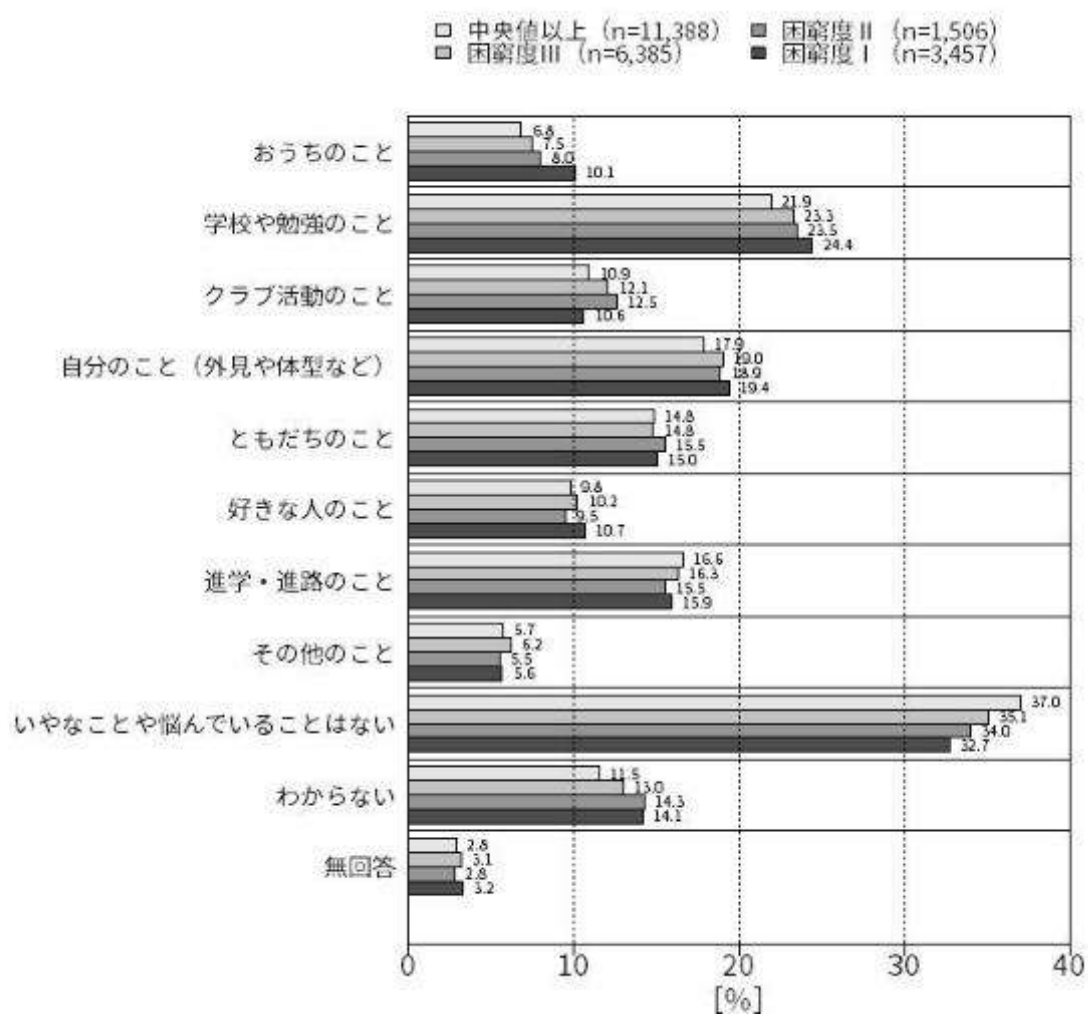


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「特に楽しいと思うときはない」1.3%（中央値以上群に対して、1.3 倍）が高かった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問21）

<大阪市 24 区>



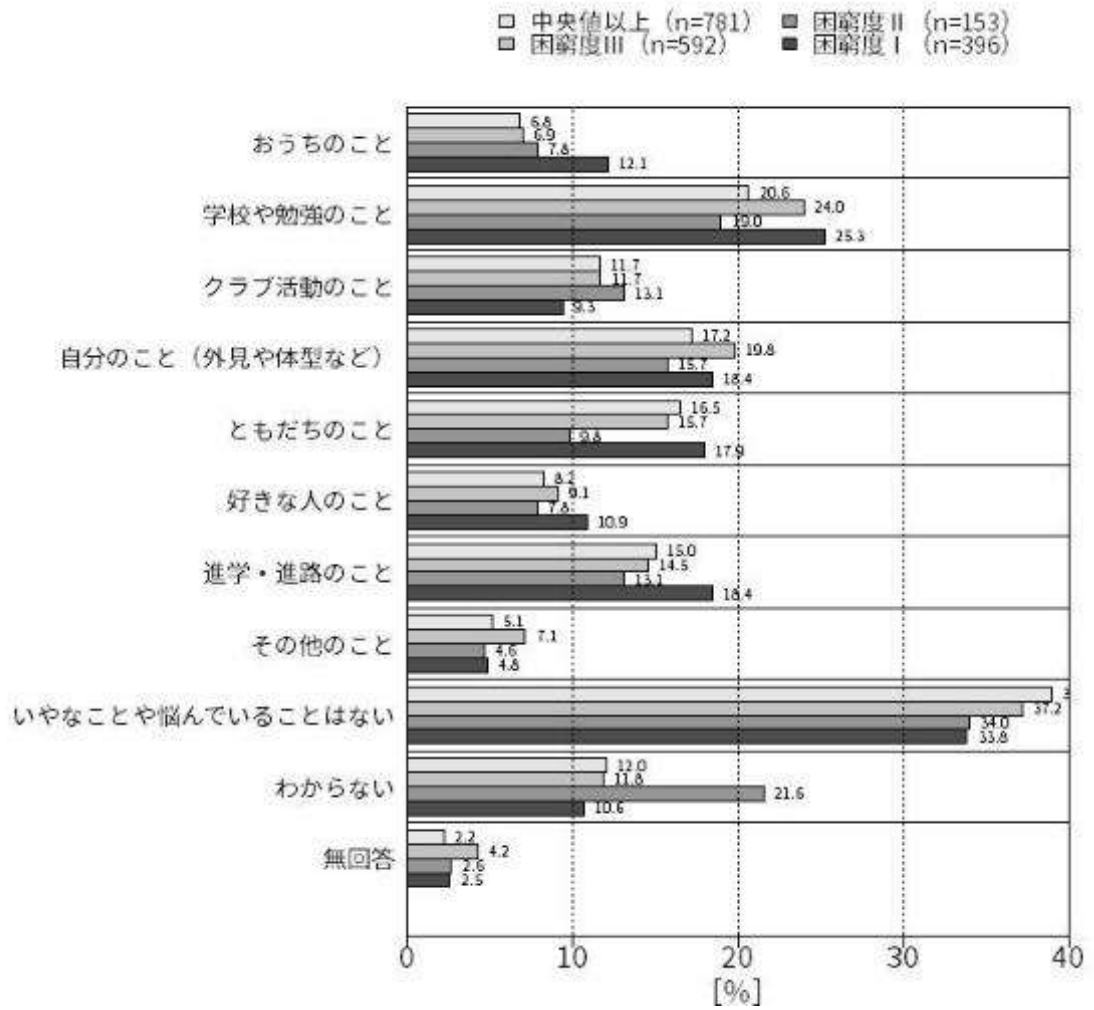
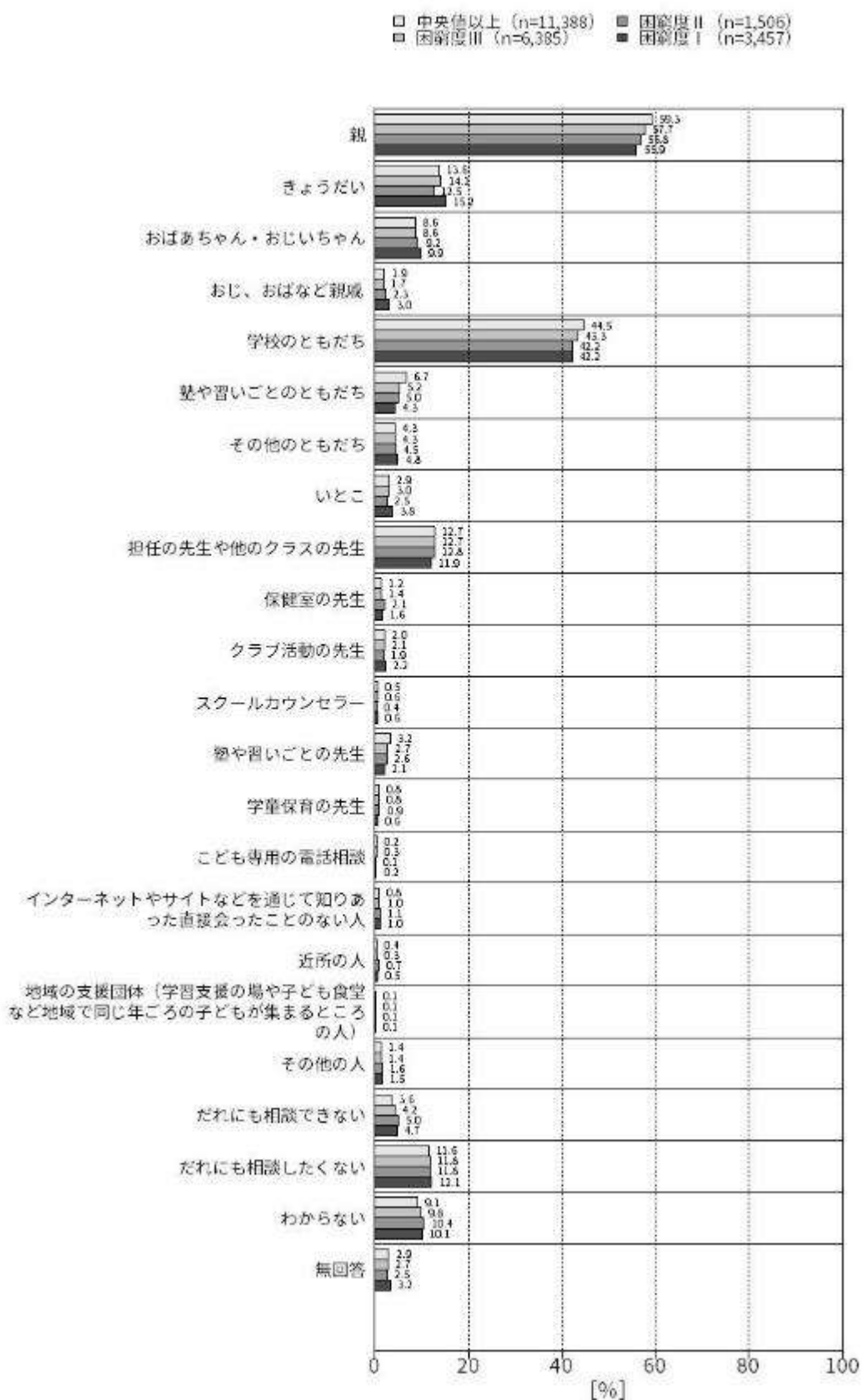


図 288. 困窮度別に見た、悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「おうちのこと」12.1%（中央値以上群に対して、1.8倍）が高く、中央値以上群で高いものは見られなかった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



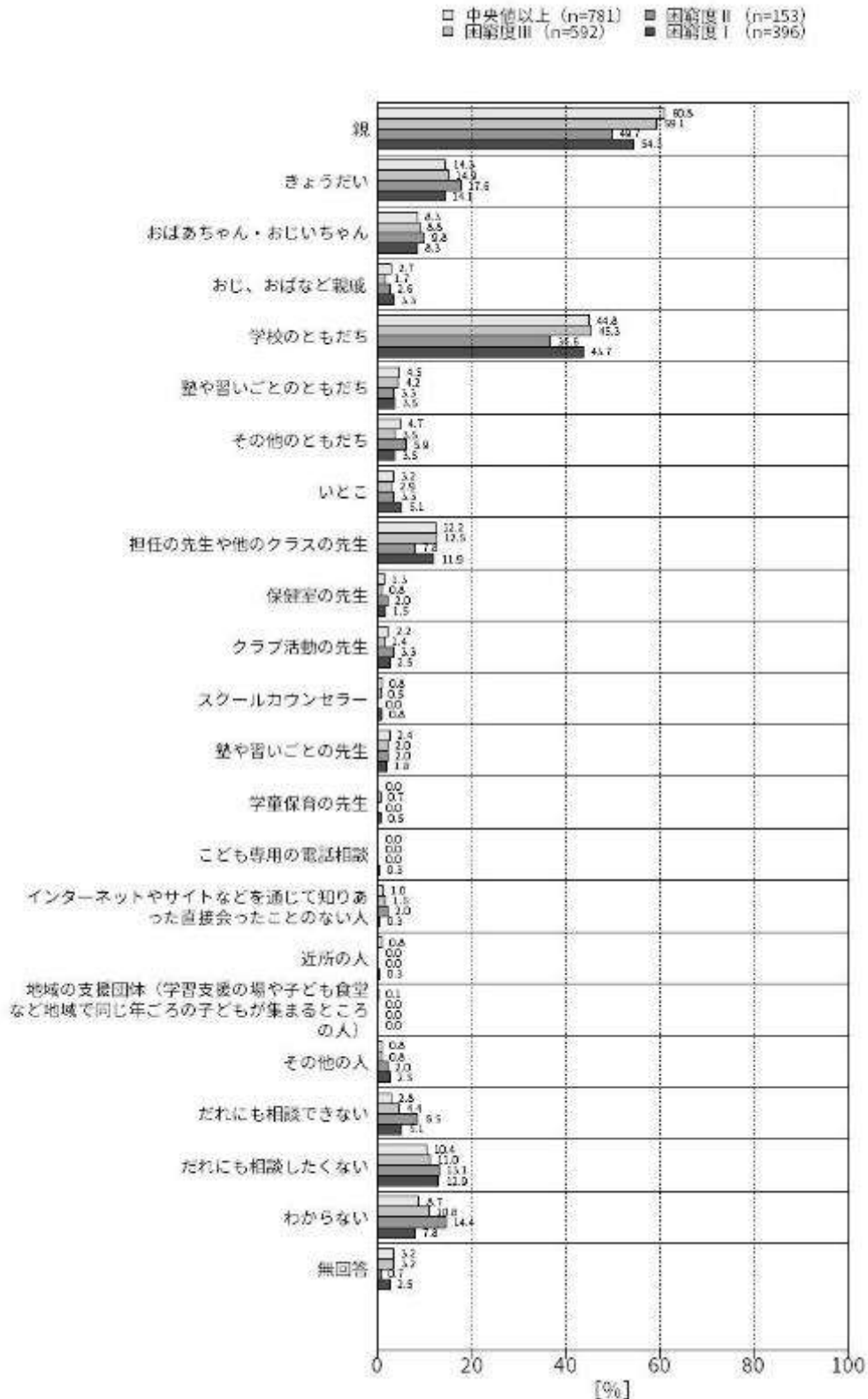
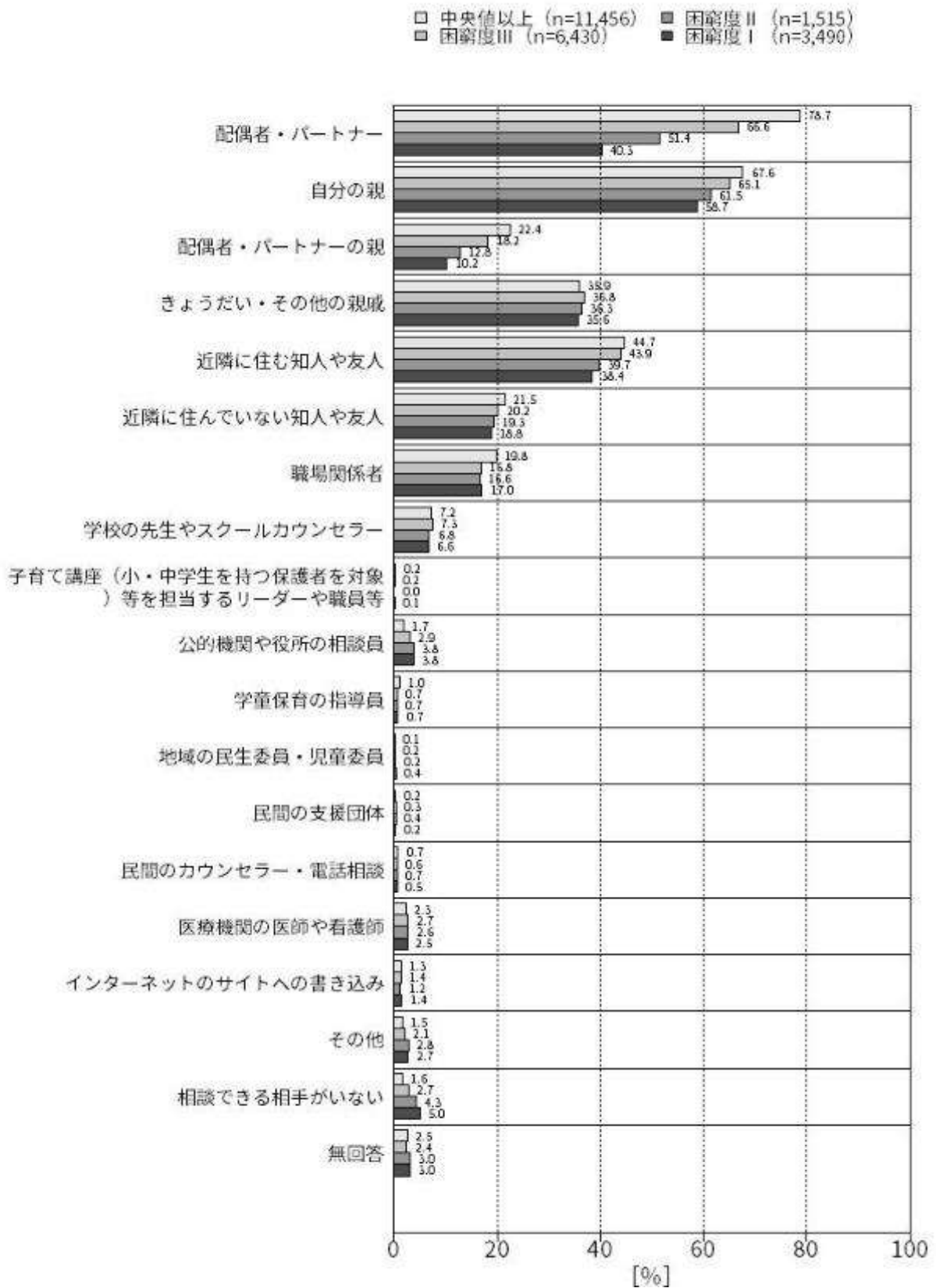


図 289. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「その他の人」2.5%（中央値以上群に対して、3.1倍）、「だれにも相談できない」5.1%（1.8倍）、「いとこ」5.1%（1.6倍）が高かった。

困窮度別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

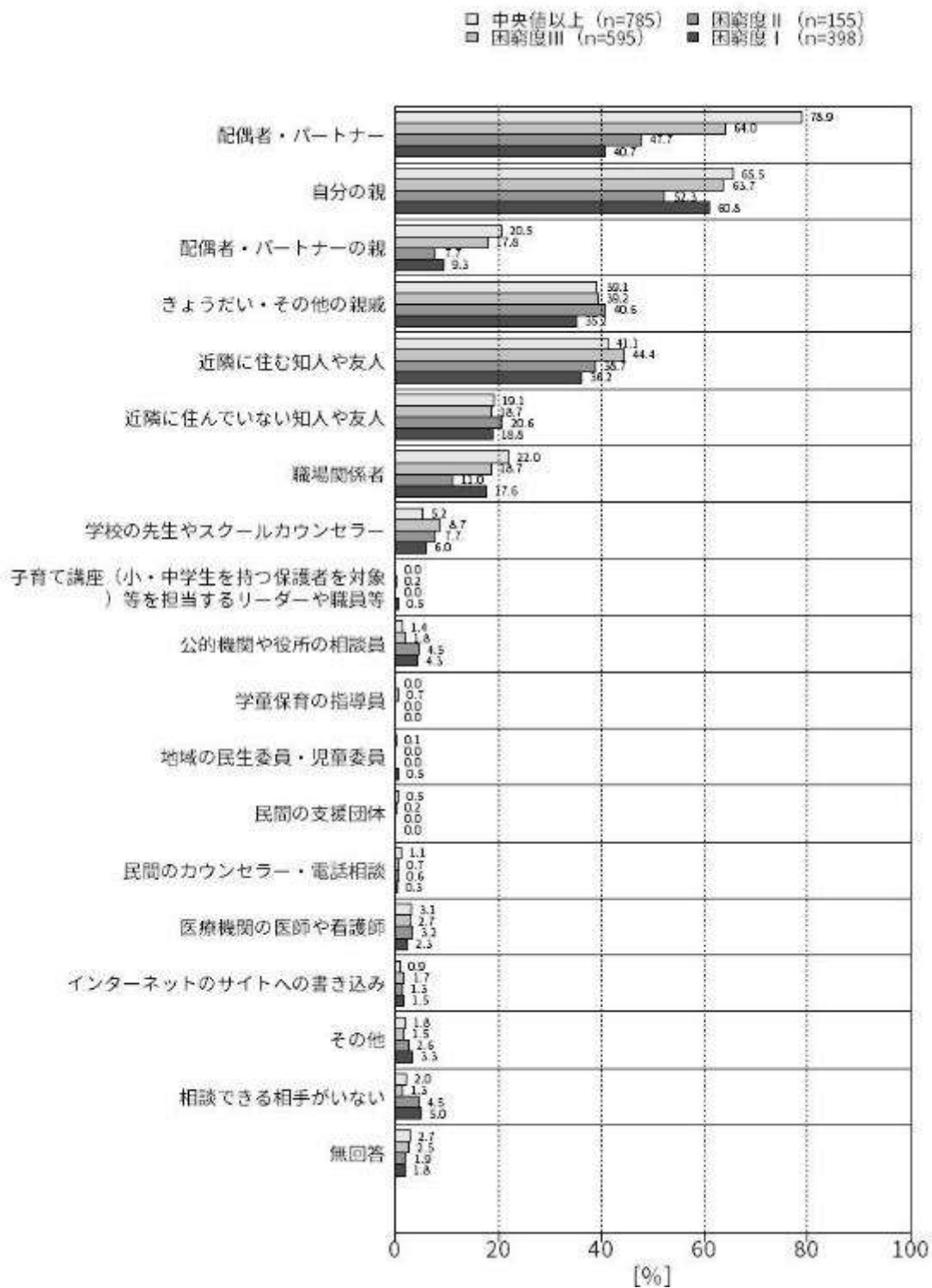
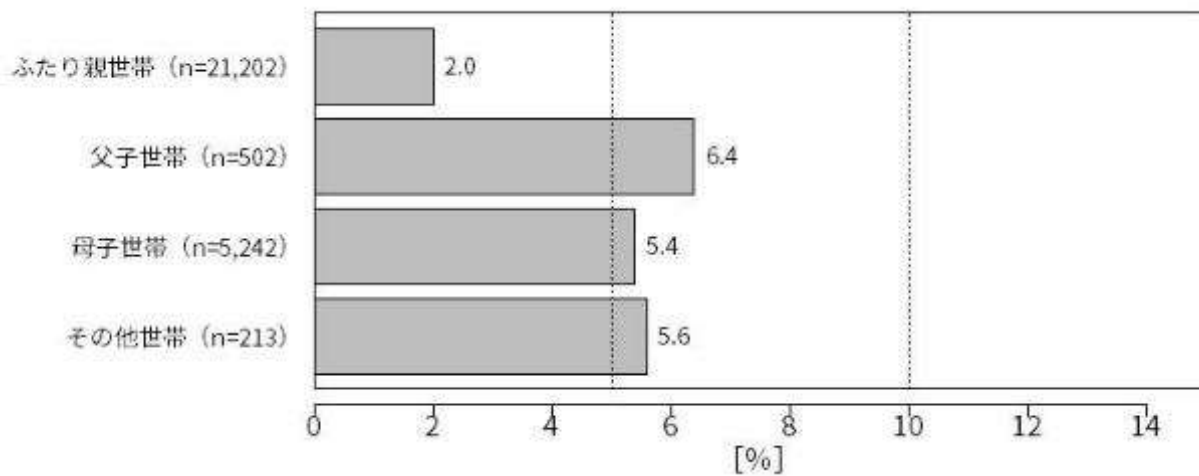


図 290. 困窮度別に見た、困ったときの相談先

困窮度別に保護者の困ったときの相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「地域の民生委員・児童委員」0.5%（中央値以上群に対して、5倍）、「公的機関や役所の相談員」4.3%（3.1倍）、「相談できる相手がいない」5%（2.5倍）が高かった。さらに、中央値以上群では「配偶者・パートナー」と回答した割合が78.9%だったのに対して、困窮度Ⅰ群では40.7%だった。

世帯構成別に見た、相談相手のいない割合（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

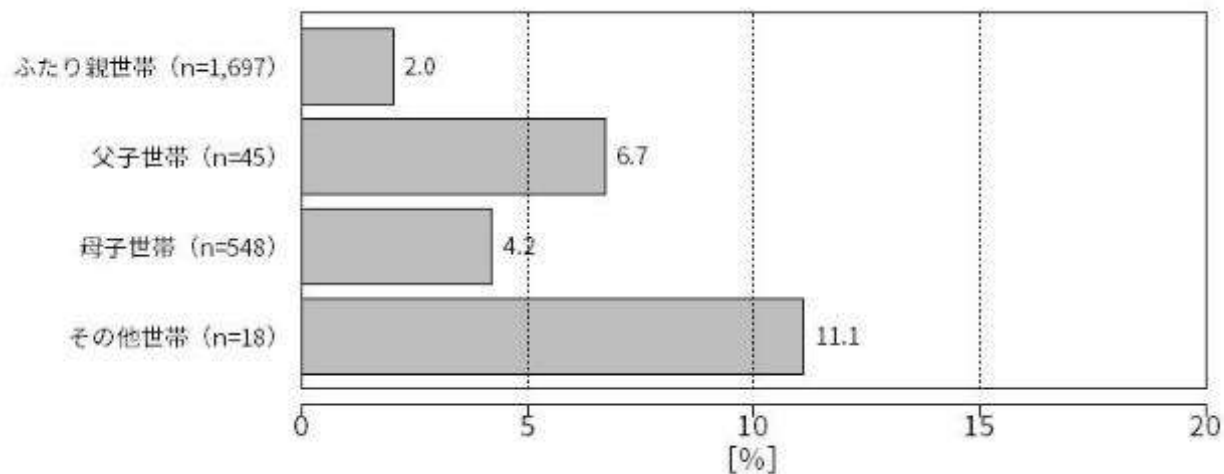


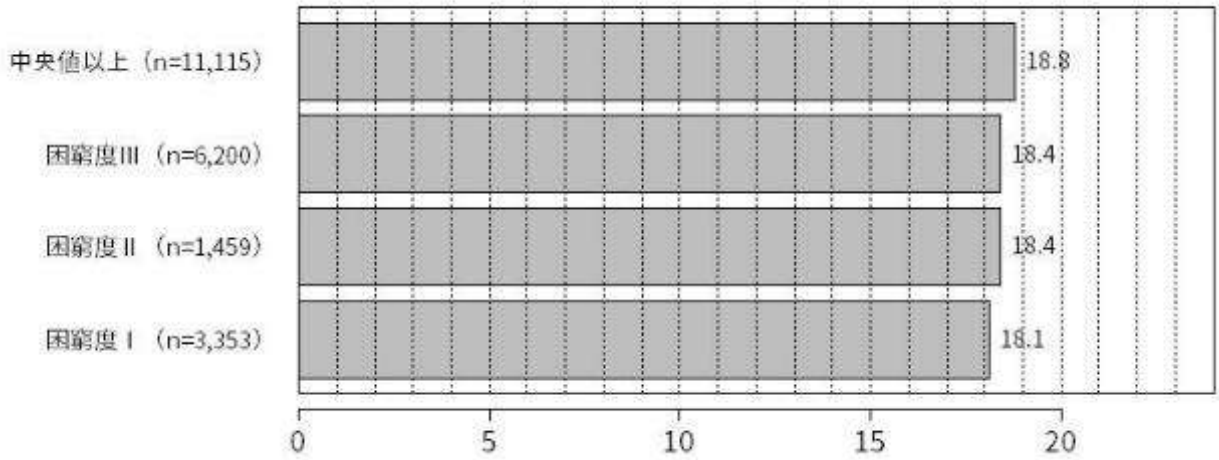
図 291. 世帯構成別に見た、相談相手のいない割合

世帯構成別に保護者の困ったときの相談先を見ると、「相談相手がない」と回答した人は、ふたり親世帯で2%、父子世帯で6.7%、母子世帯で4.2%いる。

困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー（子ども票 問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

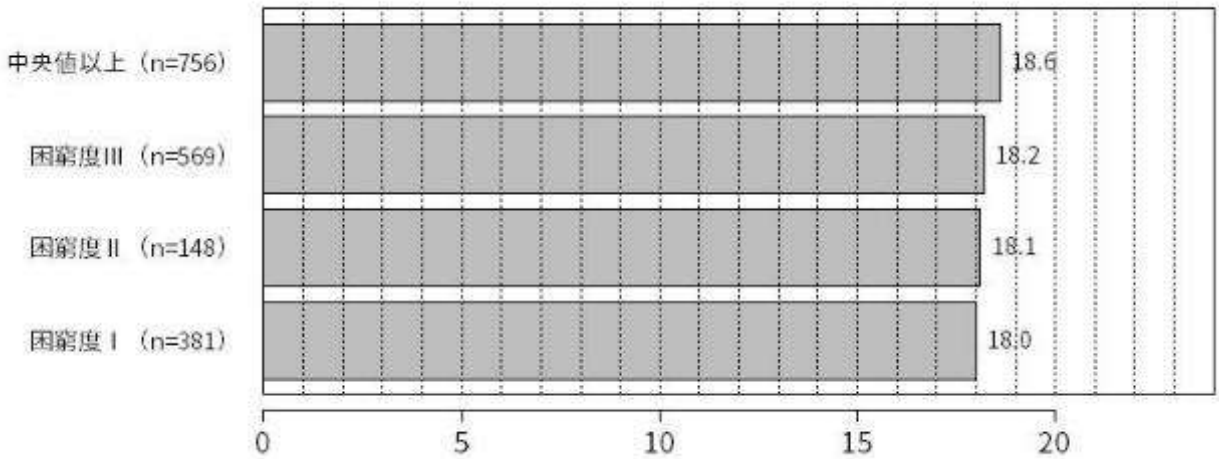


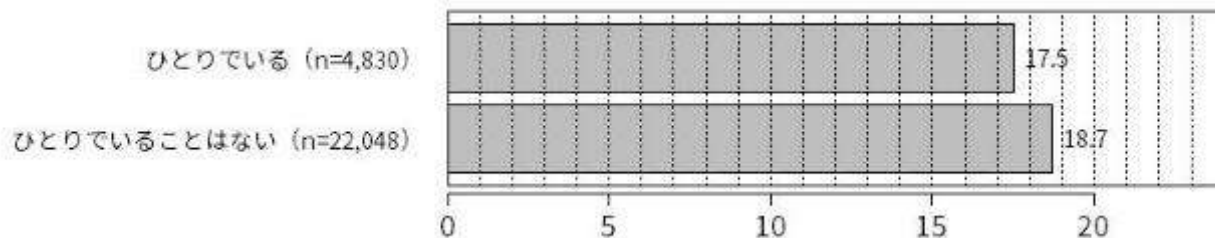
図 292. 困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均値は、中央値以上群で 18.6 点、困窮度Ⅲ群で 18.2 点、困窮度Ⅱ群で 18.1 点、困窮度Ⅰ群で 18 点であった。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー
 (子ども票 問 12 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感 (セルフ・エフィカシー) については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

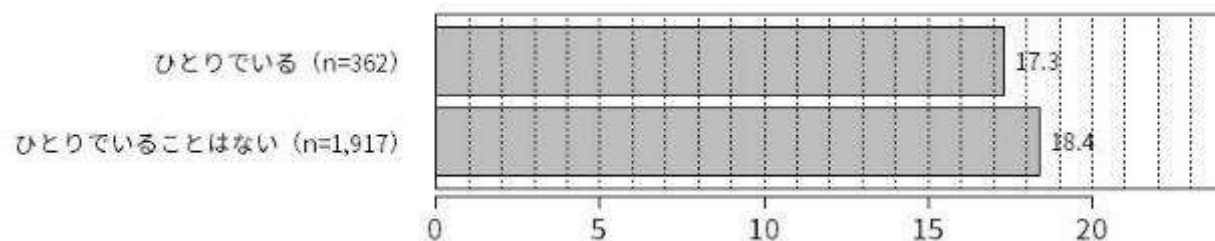


図 293. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感 (セルフ・エフィカシー) を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方は 17.3 点、ひとりでいることはない子どもは 18.4 点であった。

困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 22 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

※「あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。(だれに話しますか。)」に対し、以下のようにまとめた。

家族・親戚に相談：「親」「きょうだい」「おばあちゃん・おじいちゃん」「おじ・おばなど親戚」「いとこ」のうち1つ以上に回答した人

ともだちに相談：「学校のともだち」「塾や習い事のともだち」「その他のともだち」のうち1つ以上に回答した人

先生に相談する：「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」「クラブ活動や部活の先生」のうち1つ以上に回答した人

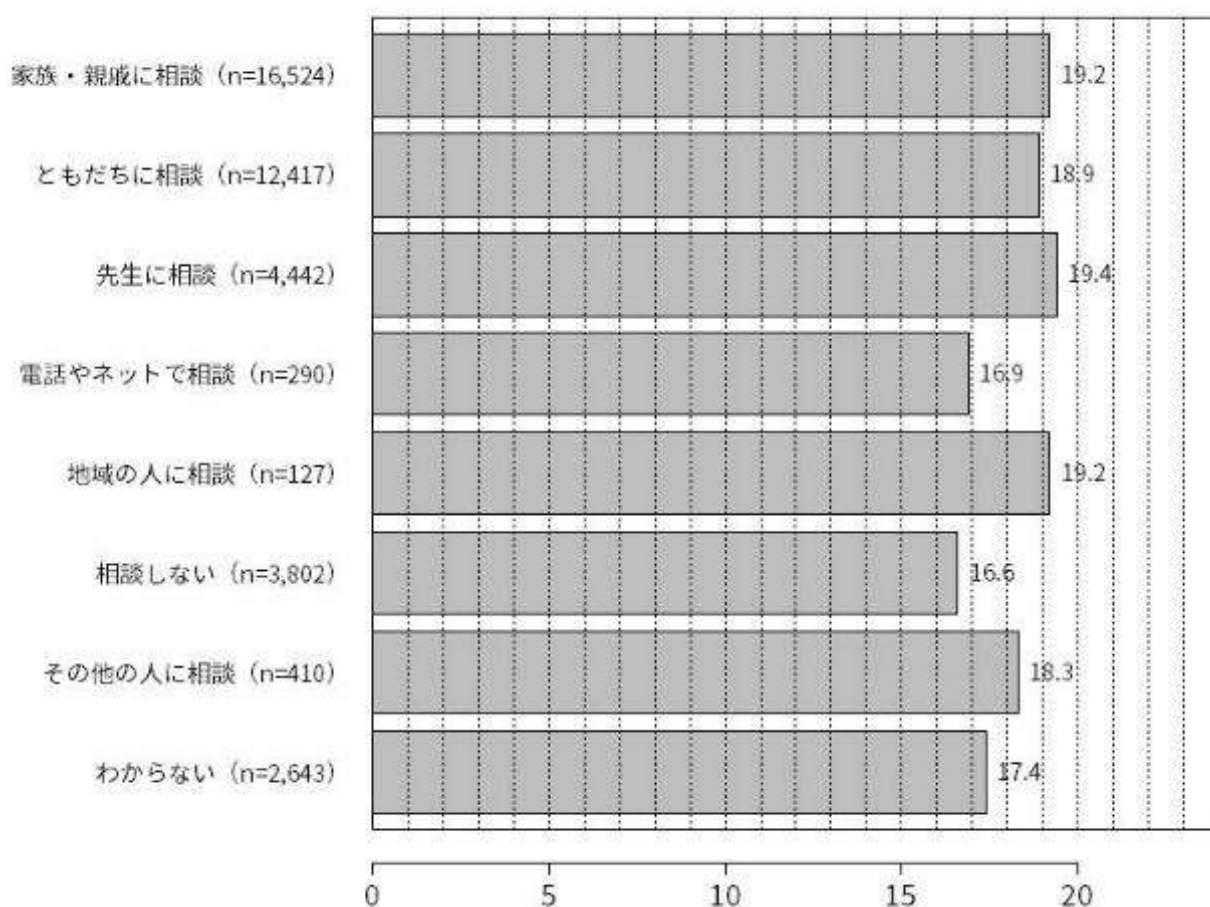
「スクールカウンセラー」「塾や習いごとの先生」「学童保育、児童いきいき放課後事業の先生」のうち1つ以上に回答した人

電話やネットで相談する群：「子ども専用の電話相談」「インターネットやサイトを通じて知り合った直接会ったことのない人」のうち1つ以上に回答した人

地域の人に相談する群：「近所の人」「地域の支援団体」のうち1つ以上に回答した人

相談しない群：「だれにも相談できない」「だれにも相談したくない」のうち1つ以上に回答した人

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

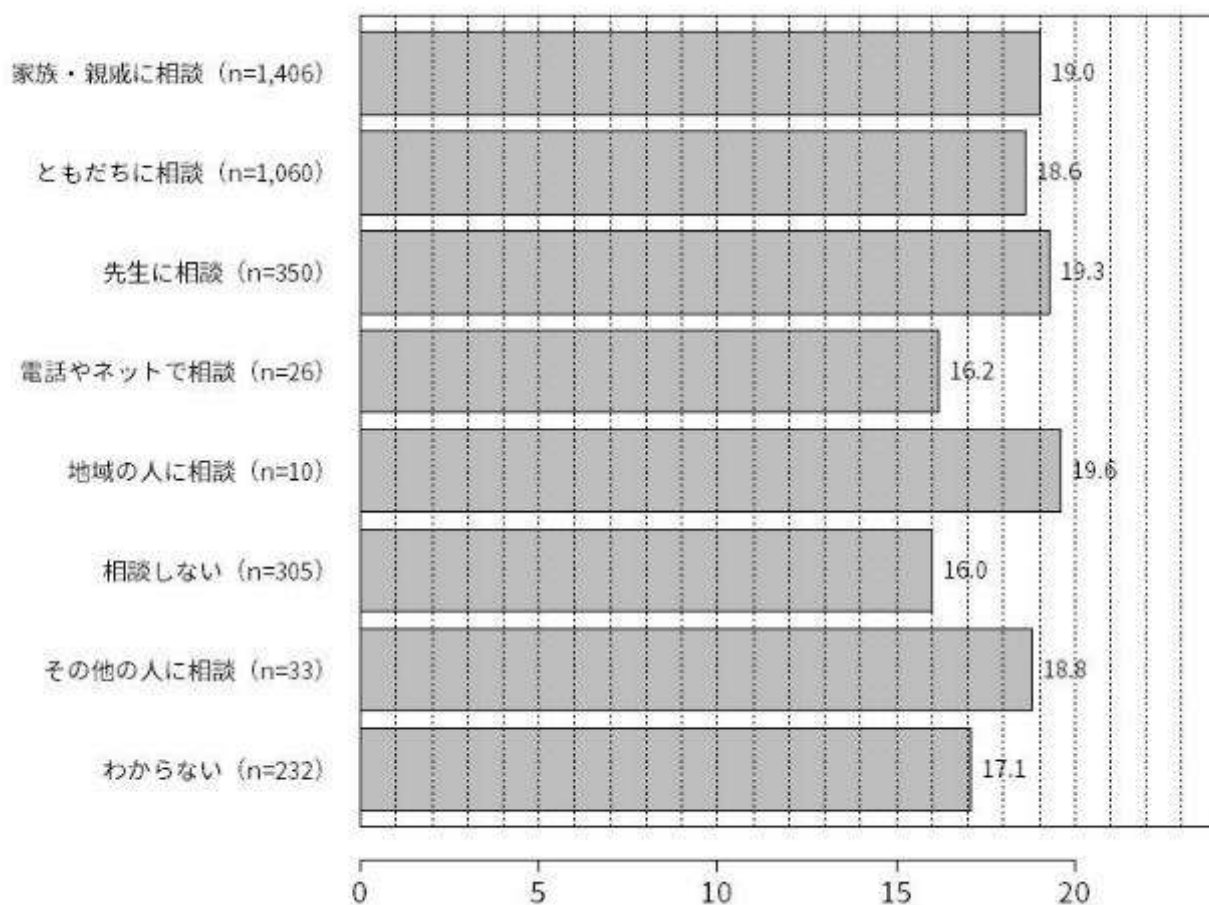


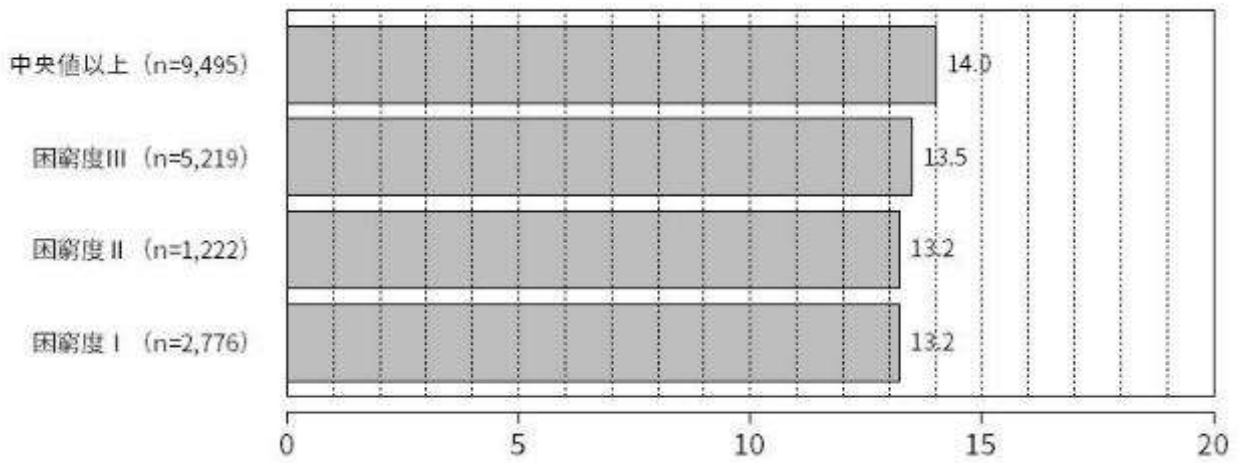
図 294. 困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）によって子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、低い順に「相談しない」16.0点、「電話やネットで相談」16.2点、「わからない」17.1点であった。

困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※保護者のセルフ・エフィカシーについては図 197 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

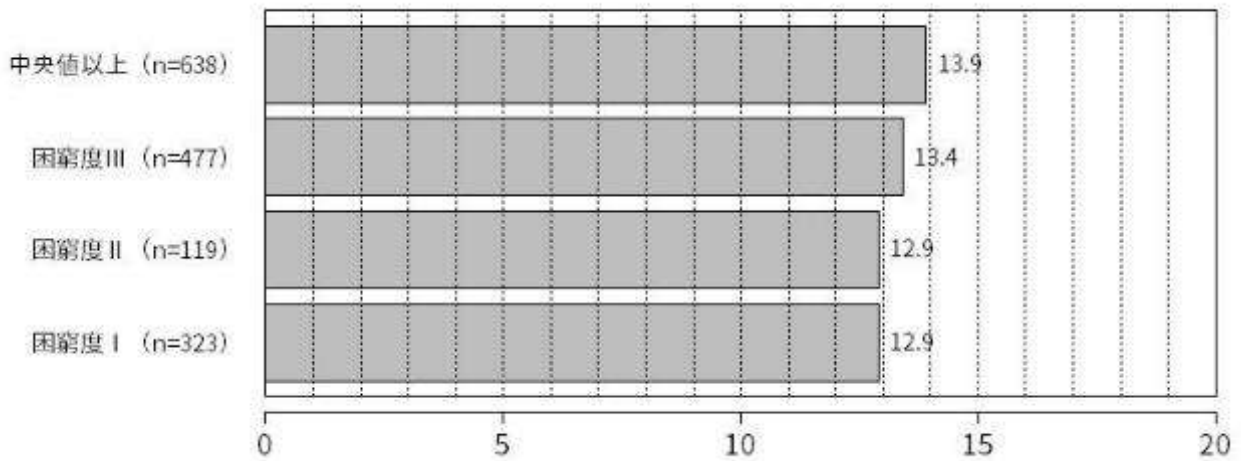


図 295. 困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

困窮度別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群で 13.9 点、困窮度Ⅰ群で 12.9 点であった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (家の手伝いをするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10④)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

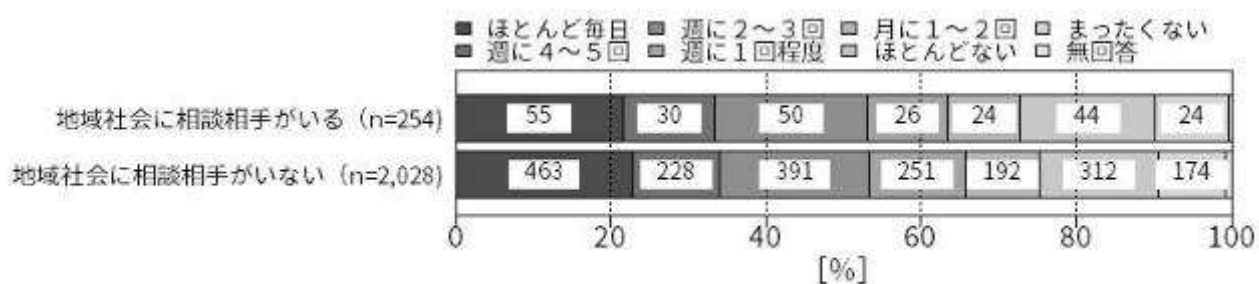


図 296. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (家の手伝いをするか)

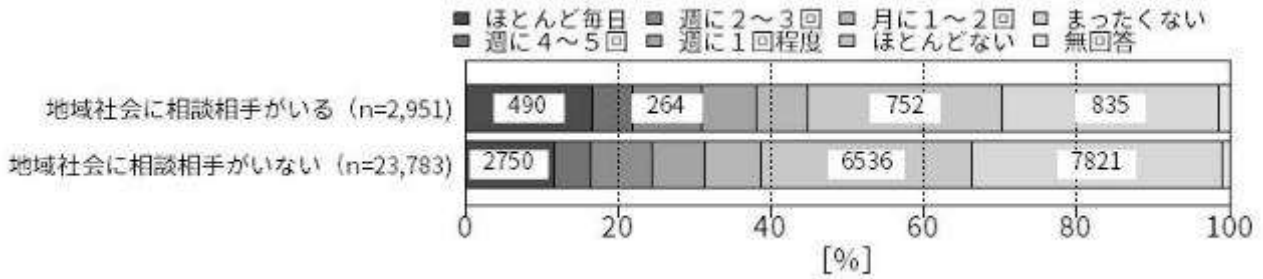
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (家の手伝いをするか) を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「おうちの手伝いをするか」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高い傾向にあった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人に宿題をみてもらうか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑤)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

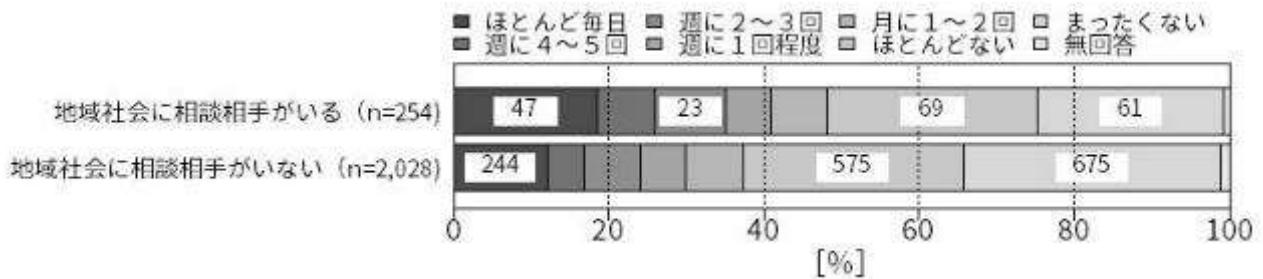


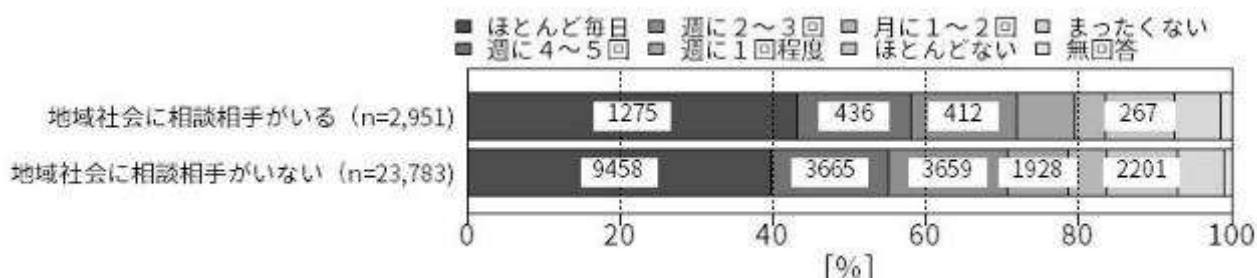
図 297. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人に宿題をみてもらうか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっている」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高い傾向にあった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と学校の話をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑥)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

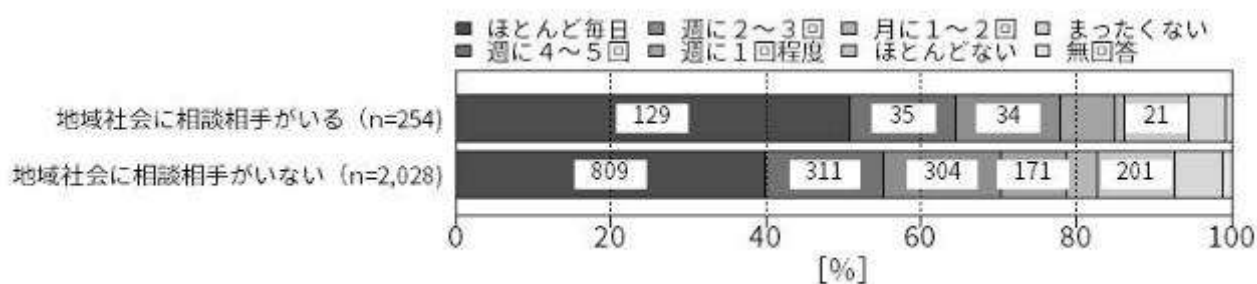


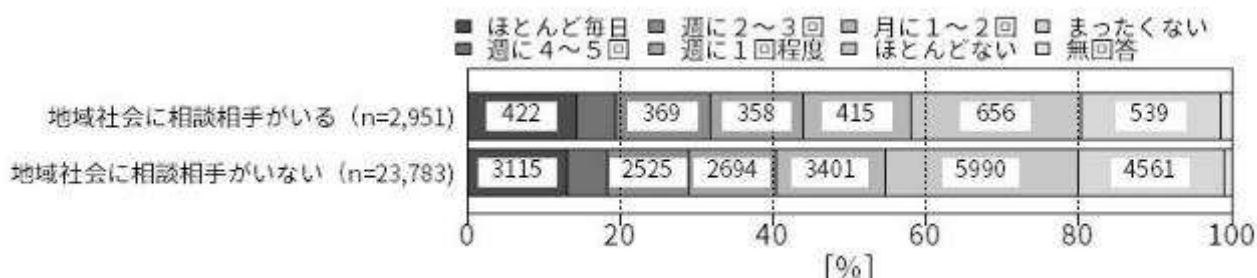
図 298. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と学校の話をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人と学校のできごとについて話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高い傾向にあった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑦)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

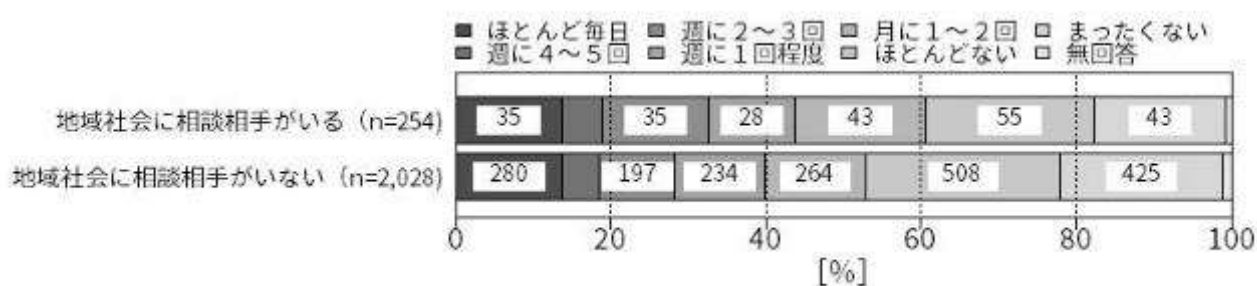


図 299. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが「おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりする」に差はなかった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と社会のできごとを話すか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑧)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

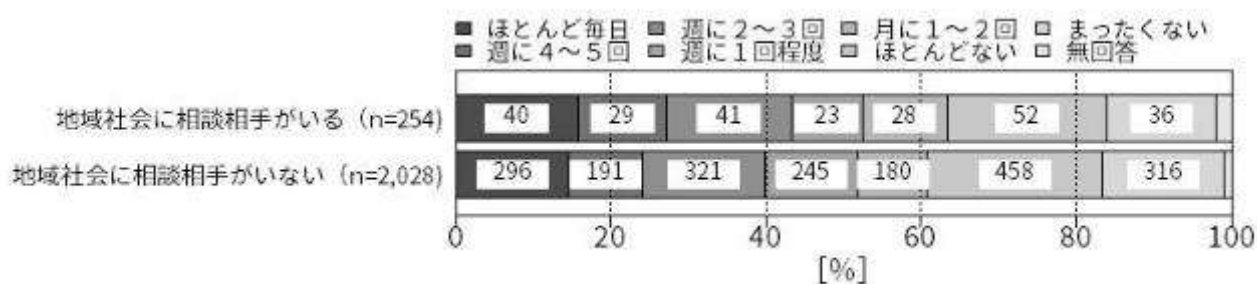


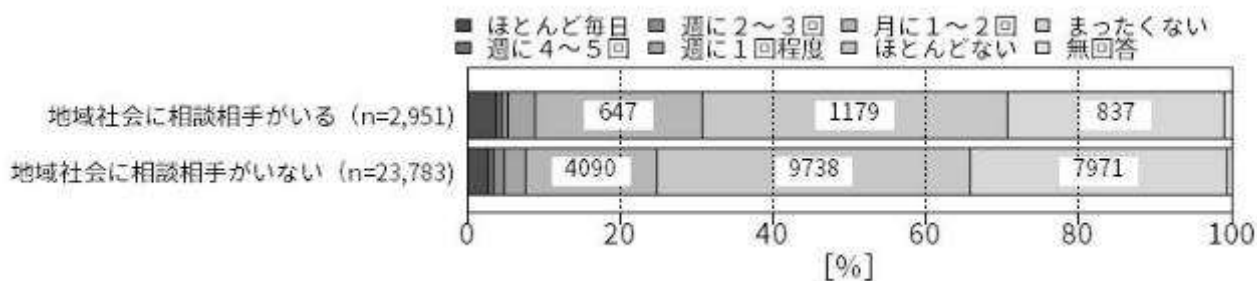
図 300. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と社会のできごとを話すか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と社会のできごとを話すか) を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「ニュースなど社会のできごとを話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高い傾向にあった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と文化活動をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10㉑)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

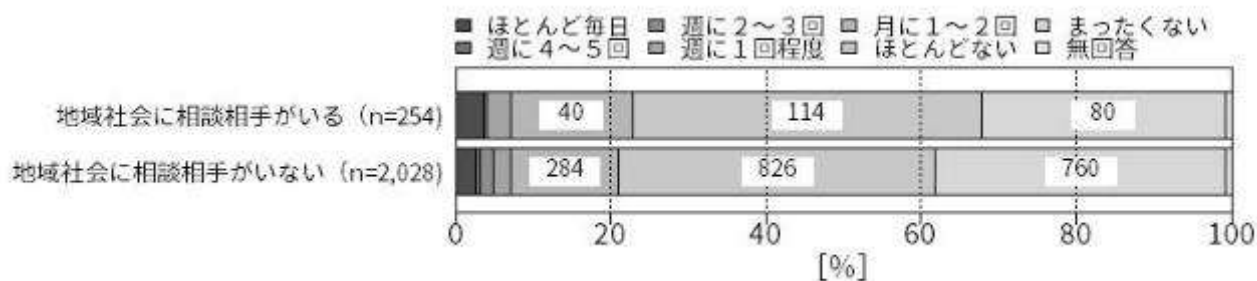


図 301. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と文化活動をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と文化活動をするか) を見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、「おうちの大人と文化活動 (図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど) をする」に「まったくない」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と一緒に外出するか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑩)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

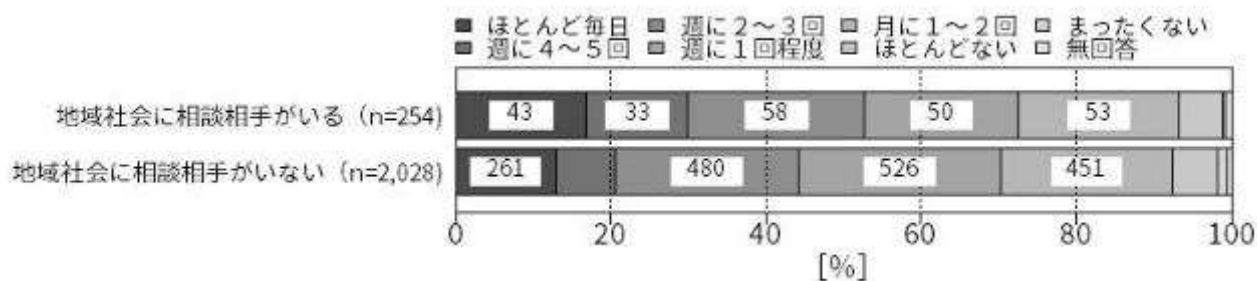


図 302. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と一緒に外出するか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」方が「地域社会に相談相手がない」よりも、子どもが地域社会に相談相手がいるかないかによって「おうちの大人の人と一緒に外出する」頻度が「ほとんど毎日」と回答した割合が高かった。

<対人関係に関する考察>

子どもが放課後一緒に過ごす相手について、困窮度によって数値の高い項目を見ると、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親戚など）」は、中央値以上群では53.3%（大阪市全体：59.1%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では46.5%（大阪市全体：51.8%）と低くなっていた。また、「ひとりである」と回答した割合は困窮度Ⅱ群において19.0%（大阪市全体：19.9%）と高かった。困窮度の高い世帯では、子どもは、保護者と過ごして楽しいと思える機会や保護者に対して悩みを相談する機会を十分に持てていない可能性が懸念される。ただ、大阪市全体と比べて、そもそも「おうちの大人の人」という子どもの割合が少ないのは本区の特徴と考えられる。

また、嫌なことや悩んでいることについて、困窮度別に高い項目を見ると、困窮度Ⅰ群では「おうちのこと」12.1%（大阪市全体：10.1%）、「学校や勉強のこと」25.3%（大阪市全体：24.4%）が高く、「いやなことや悩んでいることはない」33.8%（大阪市全体：32.7%）が低くなっている。

本調査では、子どもが放課後過ごす場所として、中央値以上群では「塾」が26.5%（大阪市全体：30.8%）、「習いごと」が32.5%（大阪市全体：36.4%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群ではそれぞれ16.2%（大阪市全体：17.5%）、23.7%（大阪市全体：22.0%）であった。そのため、放課後一緒に過ごす相手も「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」や「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」は、中央値以上群ではそれぞれ18.1%、10.2%（大阪市全体：21.7%、10.2%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では10.6%、7.6%（大阪市全体：12.8%、7.1%）と低くなっている。大阪市全体と同様に、子どもが塾や習い事に通うことを促す対策は、ただ学習理解や専門技能の獲得を促しているだけではなく、子どもの交友関係の拡大を促している可能性が考えられる。

保護者が地域社会に相談相手がない場合、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうことが「まったくない」子どもは33.3%（大阪市全体：32.9%）、おうちの大人の人と学校での出来事について話すことが「ほとんどない」または「まったくない」子どもは16.0%（大阪市全体：15.4%）おうちの大人の人と文化活動することが「まったくない」子どもは37.5%（大阪市全体：33.5%）と高くなっていた。地域社会に相談相手がいる保護者は子どもとの関係について相談できる機会を多く持つため、子どもと良好な関係を築きやすいのかもしれない。ただし、地域でのコミュニティの形成を促したり、地域の相談員などの配置を促したりといった対策をすることで、親子間での良い関係が促される可能性もあるものの、地域コミュニティの形についても考える必要があるかもしれない。

B. 5歳児保護者調査報告書

1. 回答者の属性

5歳児-1 続柄

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

大阪市平野区では、「お母さん」が82.2%、「お父さん」が4.2%、「おばあさん・おじいさん」が0.3%、「おじ、おばなど親戚」が該当なし、「施設職員・ファミリーホーム・里親」が該当なし、「その他の人」が0.2%、「無回答」が13.0%であった。

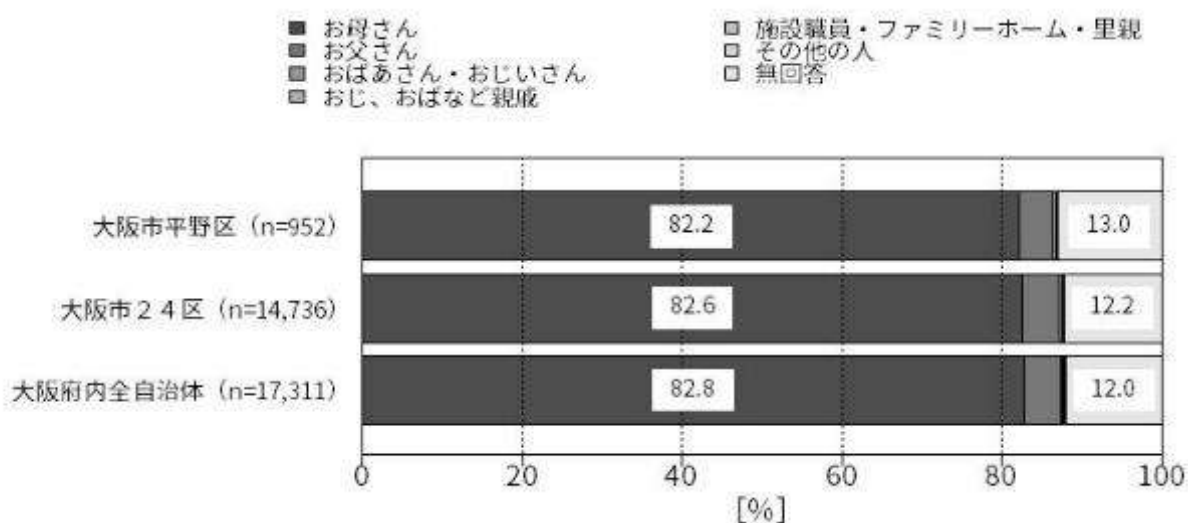


図 1. 回答者の続柄

2. 単純集計

(1) 経済状況

5歳児-41-4 世帯収入額

(4) 前年(2015年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市平野区では、「350～400万円未満」が9.3%、「300～350万円未満」が8.8%、「わからない」が8.4%、「400～450万円未満」が7.8%、「500～550万円未満」が7.7%の順に高くなっている。(グラフは大阪市24区・大阪府内全体のもののみ)

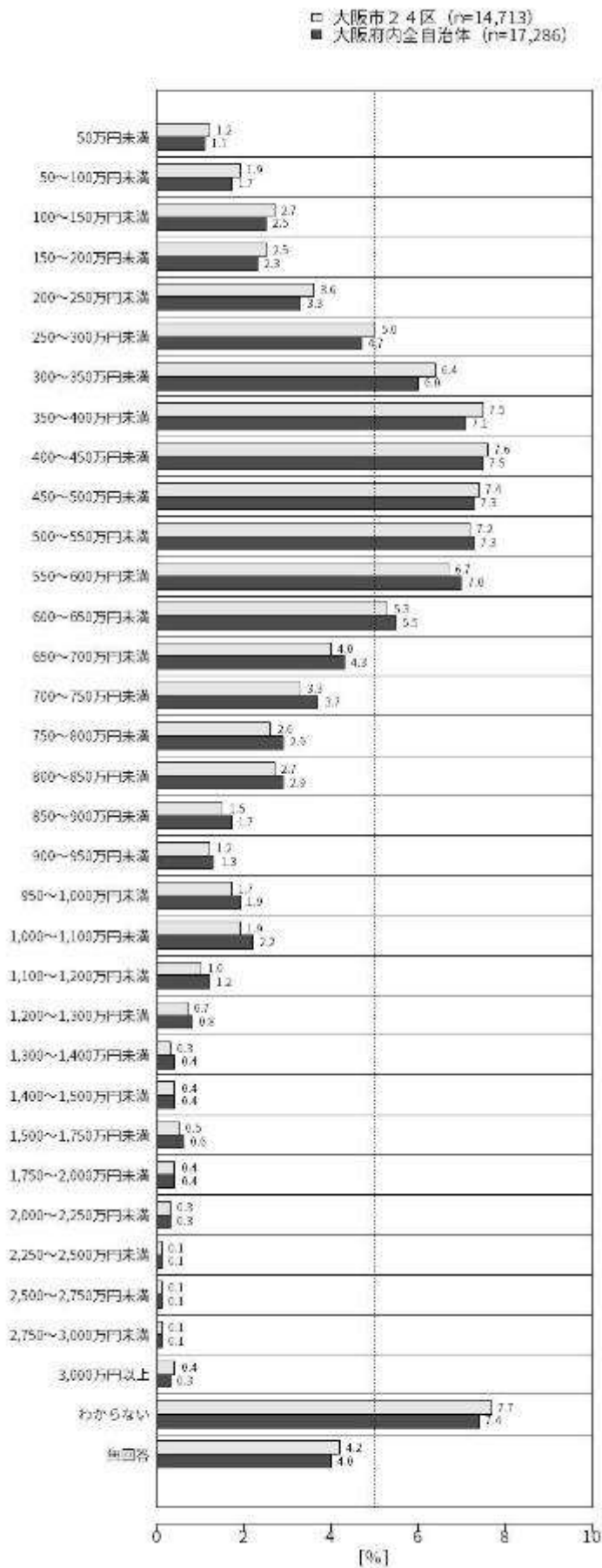


図 2. 世帯収入額

等価可処分所得に基づく困窮度の分類

表 1. 大阪市 5 歳児保護者困窮度別人数

困窮度分類	人数	%
中央値以上	6657	52.5
困窮度Ⅲ	3749	29.6
困窮度Ⅱ	774	6.1
困窮度Ⅰ	1500	11.8
合計	12680	100.0

5歳児-6 経済的な理由による経験

問6 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

大阪市平野区では、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が48.8%、「趣味やレジャーの出費を減らした」が47.4%、「食費を切りつめた」が43.5%、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が39.0%、「友人・知人との外食を控えた」が32.9%の順に高くなっている。

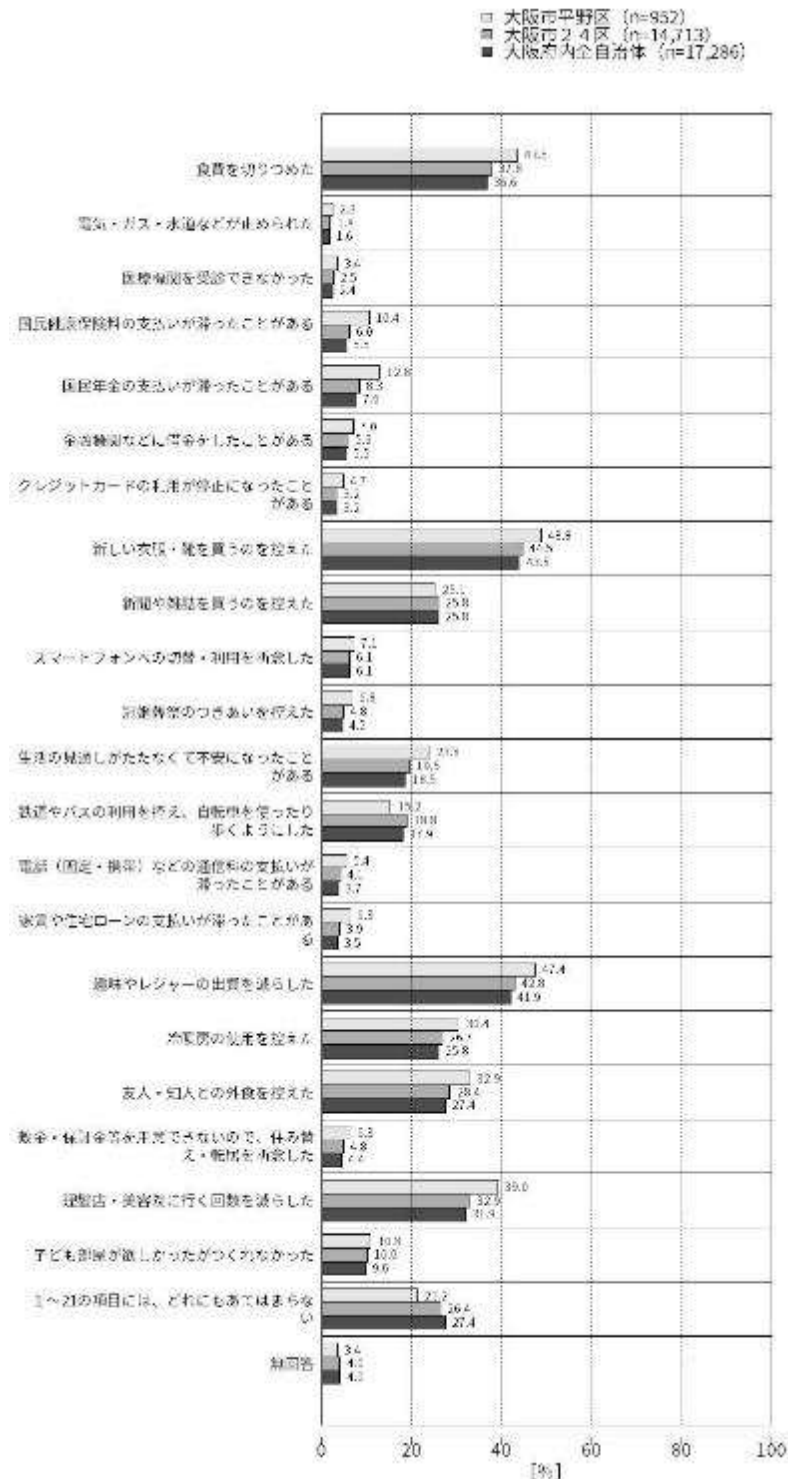


図 3. 経済的な理由による経験

5歳児-29 経済的な理由による経験

問 29 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。
 (おおむね1年の間でお考えください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

大阪市平野区では、「1～13の項目には、どれにもあてはまらない」が56.8%、「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が19.4%、「子どもを習い事に通わせることができなかった」が17.8%、「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」が12.5%、「無回答」が11.2%の順に高くなっている。

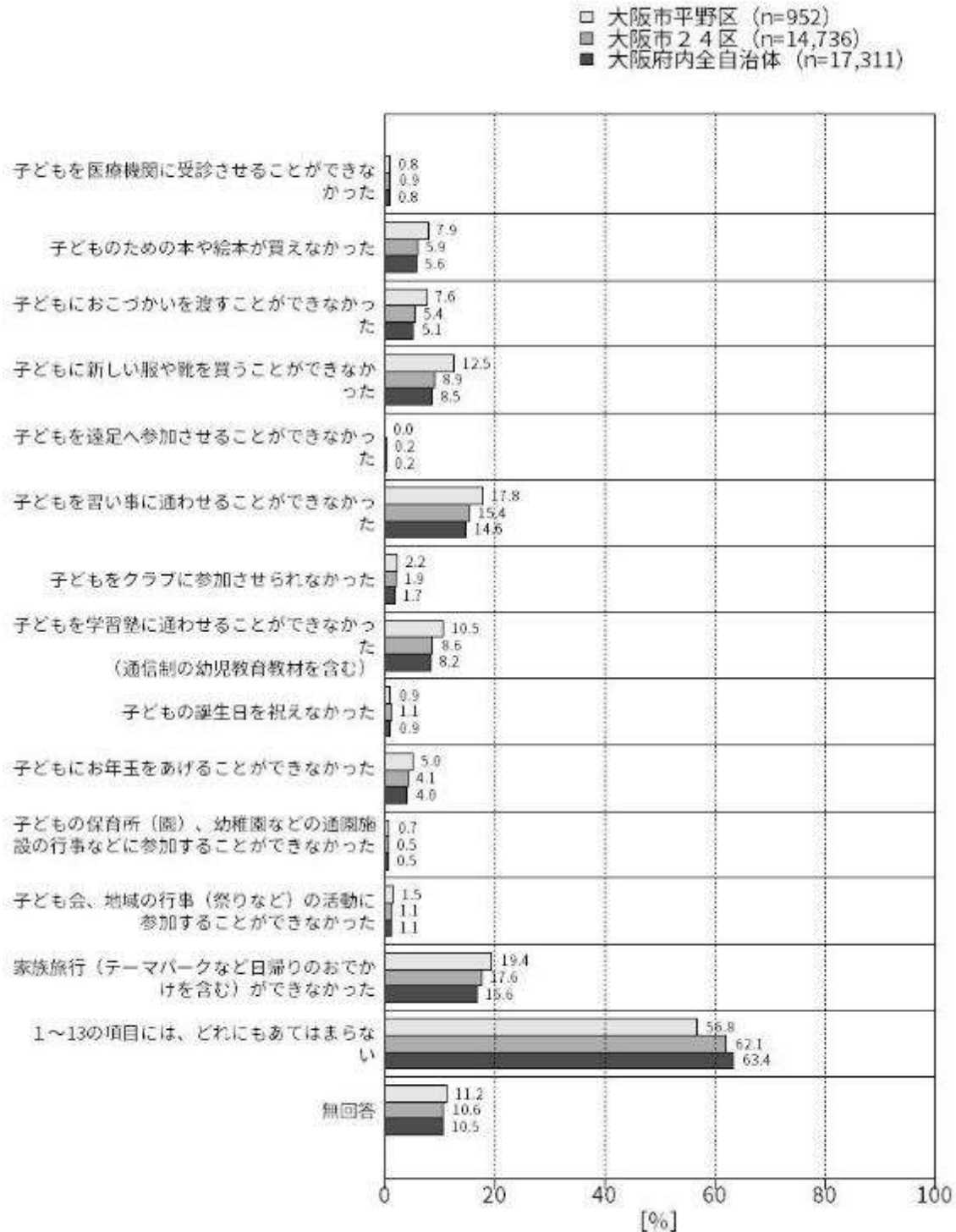


図 4. 子どもへの経済的な理由による経験

5 歳児-5-1 家計状況

問5(1) 前年(2015年)の1年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください

大阪市平野区では、「貯蓄ができています」が27.3%、「赤字でもなく黒字でもない」が29.4%、「赤字である」が36.8%、「わからない」が6.1%、「無回答」が0.4%であった。

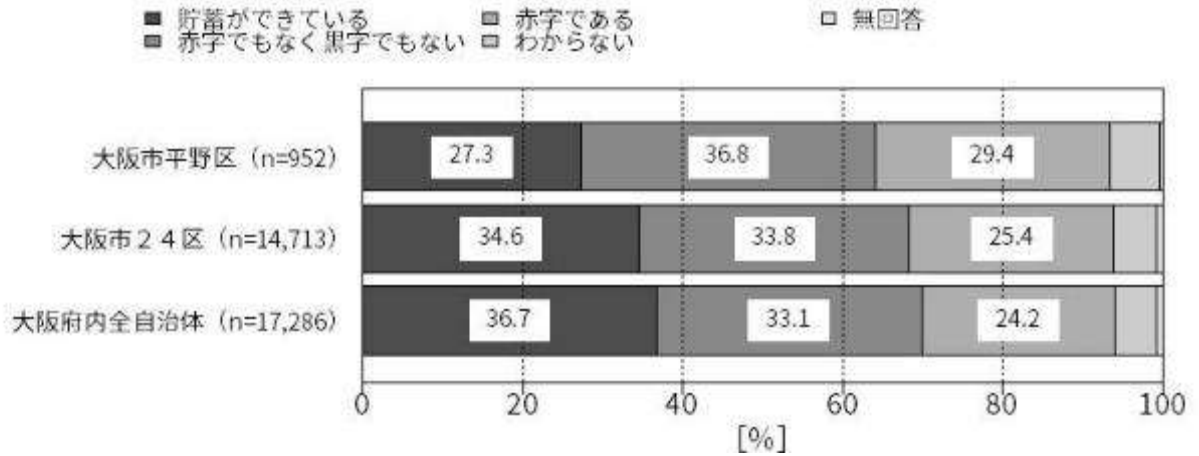


図 5. 家計状況

5 歳児-5-2 赤字の場合の対処

問5(2) 問5(1)で「2. 赤字である」と答えた方におたずねします。赤字の場合はどのようにしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

大阪市平野区では、「貯金、預金のとりくずし」が60.7%、「親や親族などからの仕送り」が8.6%、「金融機関等からの借入」が14.6%、「その他」が15.7%、「無回答」が0.4%であった。

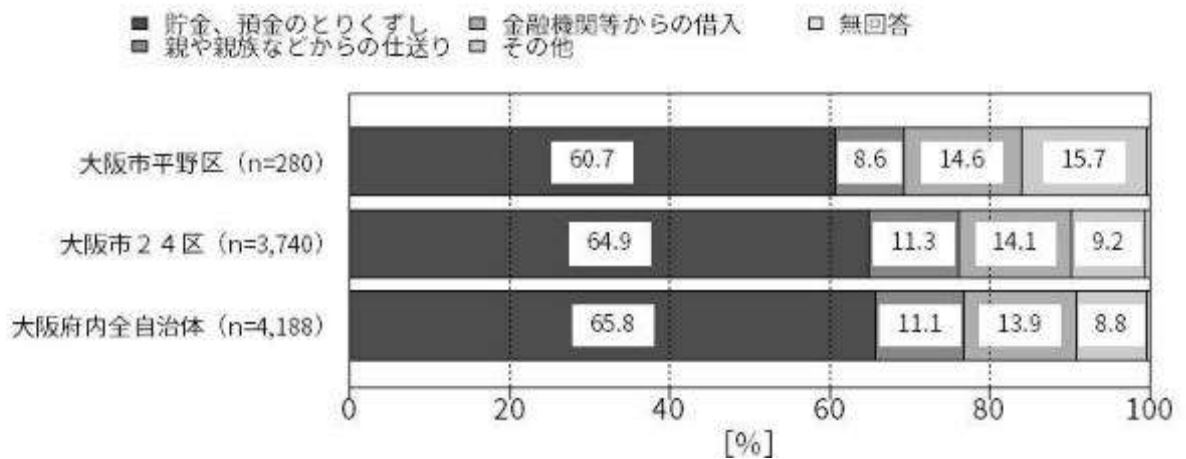


図 6. 赤字の場合の対処

5歳児-5-3 子どもの貯蓄

問5 (3) お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

大阪市平野区では、「貯蓄をしている」が54.5%、「貯蓄をしたいが、できていない」が45.0%、「貯蓄をするつもりはない」が0.1%、「無回答」が0.4%であった。

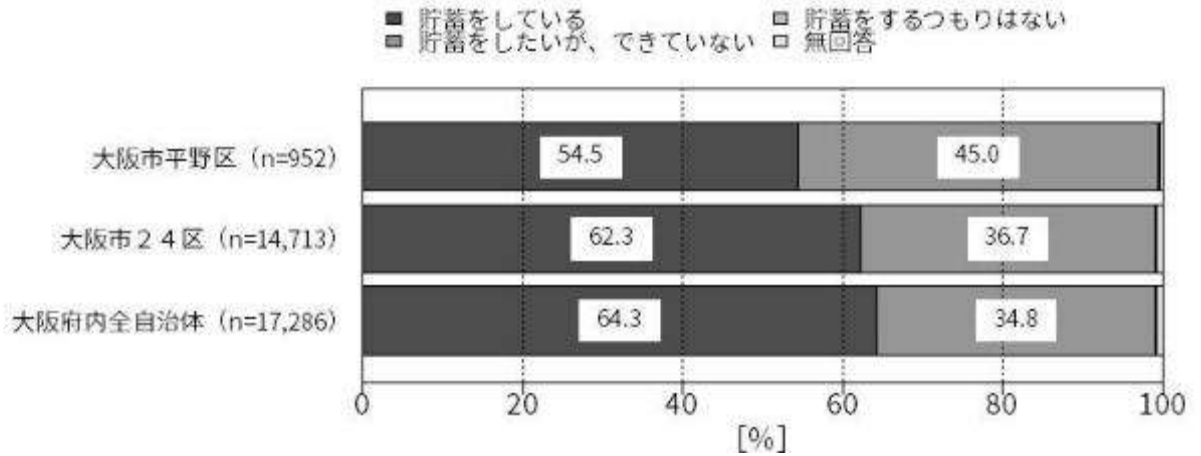


図7. 子どもの貯蓄

5歳児-41-3-1 児童手当

問41 (3) ① 児童手当 (あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市平野区では、「受けている」が89.7%、「受けたことがある」が0.5%、「受けたことはない」が1.9%、「無回答」が7.9%であった。

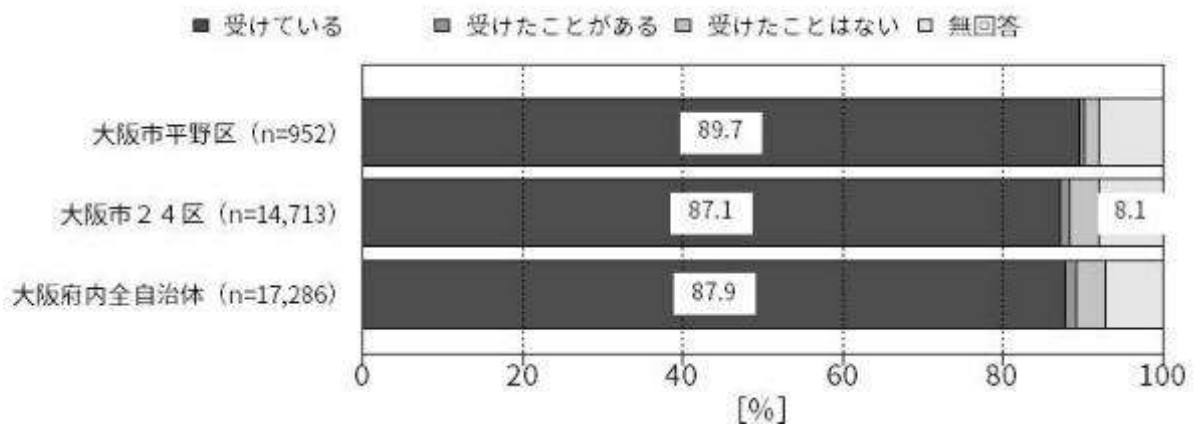


図8. 児童手当

5歳児-41-3-2 就学援助費

問 41 (3) ② 就学援助費 (あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市平野区では、「受けている」が11.2%、「受けたことがある」が4.6%、「受けたことはない」が56.4%、「無回答」が27.7%であった。

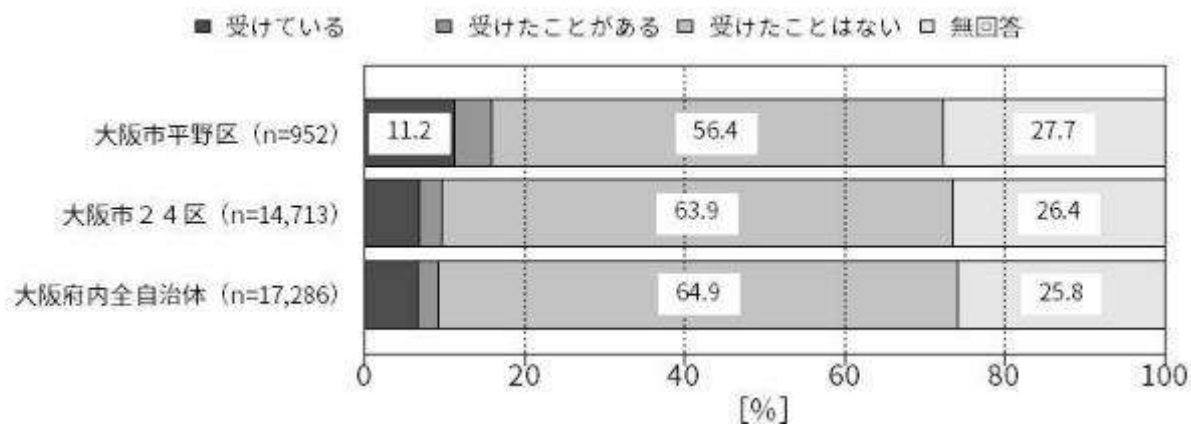


図 9. 就学援助費

5歳児-41-3-3 児童扶養手当

問 41 (3) ③ 児童扶養手当 (あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市平野区では、「受けている」が10.9%、「受けたことがある」が2.0%、「受けたことはない」が58.2%、「無回答」が28.9%であった。

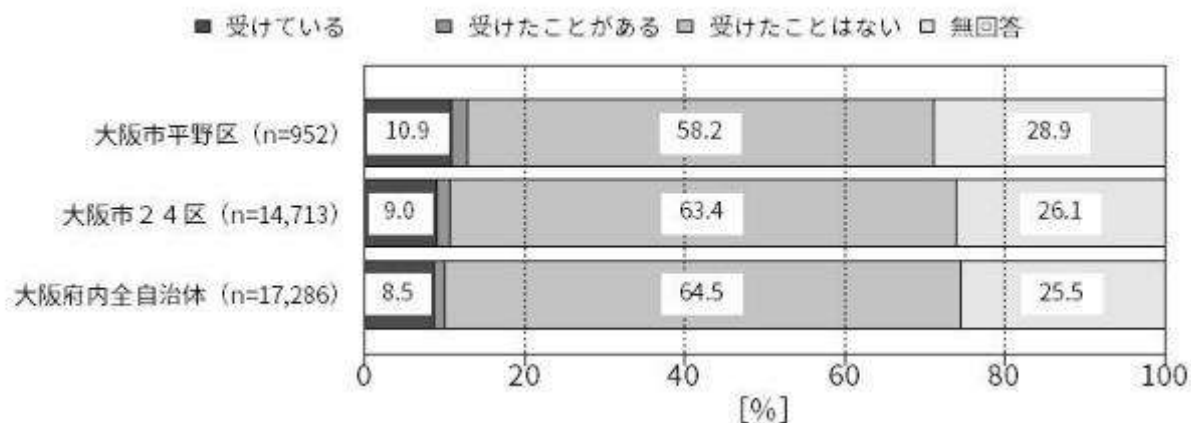


図 10. 児童扶養手当

5歳児-41-3-3 児童扶養手当 ひとり親
問 41 (3) ③ 児童扶養手当 (ひとり親)

大阪市平野区では、「受けている」が50.8%、「受けたことがある」が3.9%、「受けたことはない」が26.3%、「無回答」が19.0%であった。

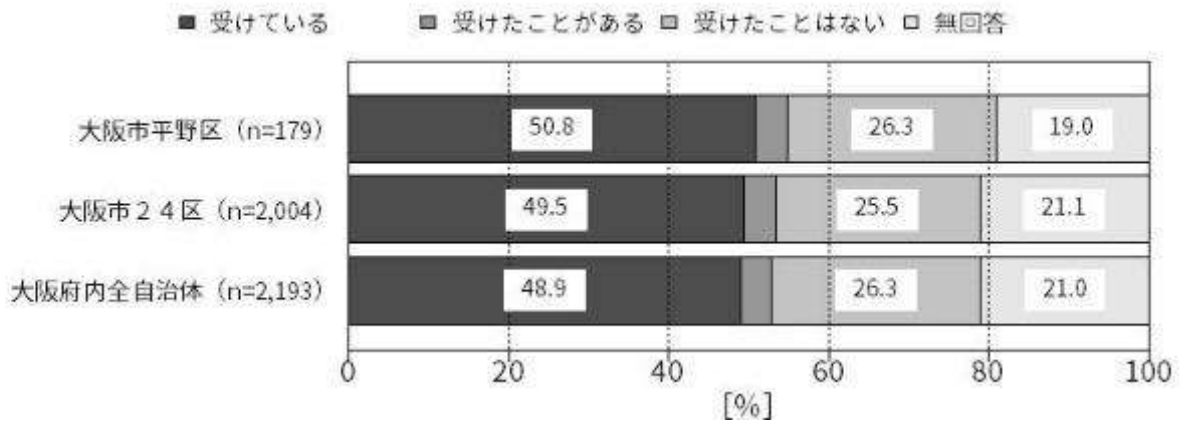


図 11. 児童扶養手当 (ひとり親世帯)

5歳児-41-3-3 児童扶養手当 母子世帯
問 41 (3) ③ 児童扶養手当 (母子世帯)

大阪市平野区では、「受けたことがある」が4.3%、「受けたことはない」が22.6%、「無回答」が20.1%であった。

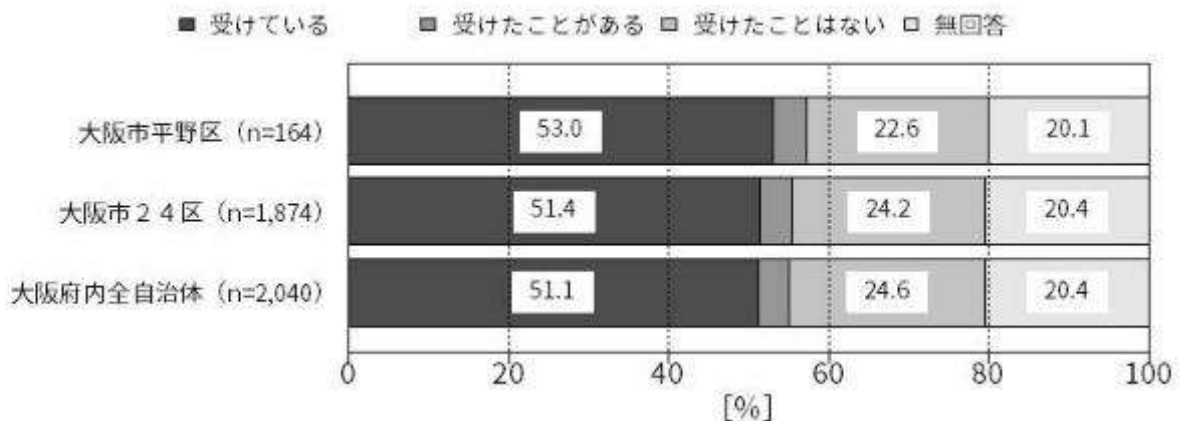


図 12. 児童扶養手当 (母子世帯)

5歳児-41-3-3 児童扶養手当 父子世帯

問 41 (3) ③ 児童扶養手当 (父子世帯)

大阪市平野区では、「受けている」が26.7%、「受けたことがある」が該当なし、「受けたことはない」が66.7%、「無回答」が6.7%であった。

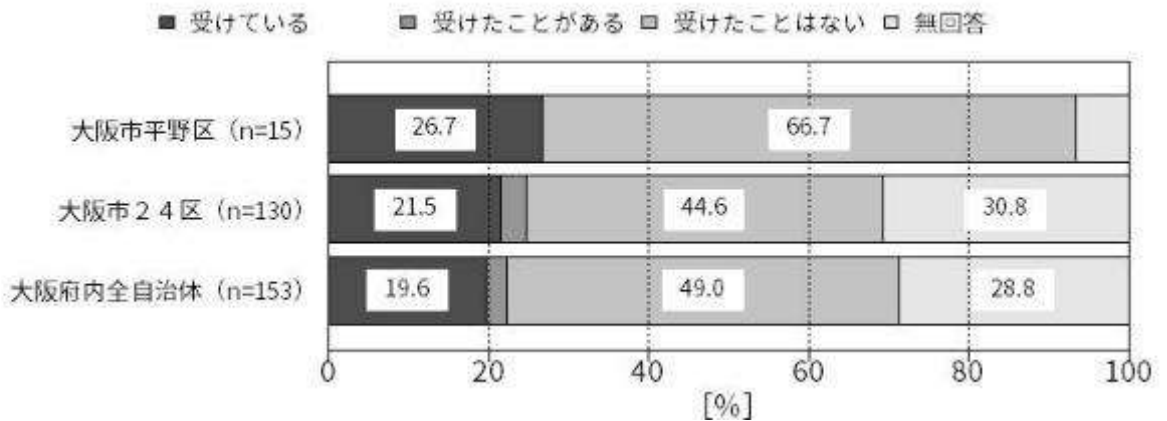


図 13. 児童扶養手当 (父子世帯)

5歳児-41-3-5 生活保護

問 41 (3) ⑤ 生活保護 (あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市平野区では、「受けている」が3.8%、「受けたことがある」が1.9%、「受けたことはない」が64.1%、「無回答」が30.3%であった。

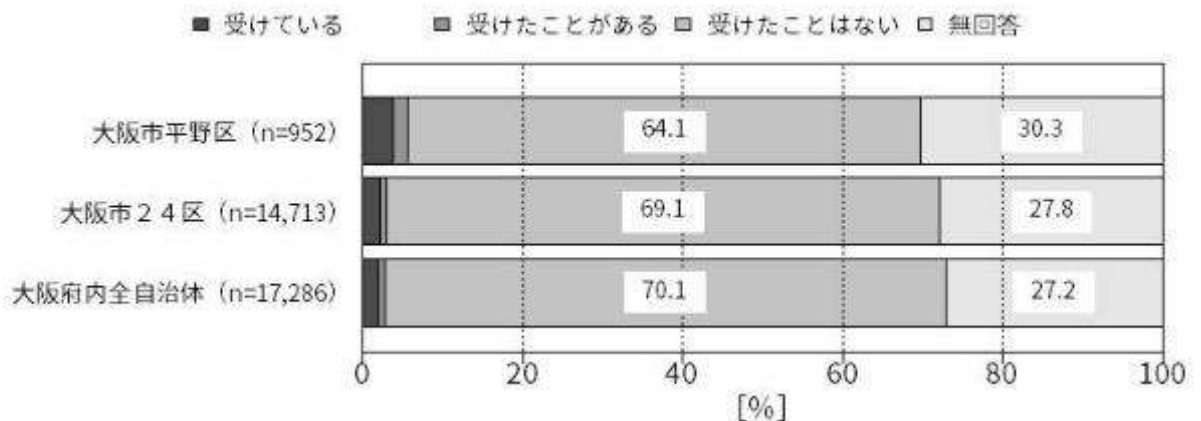


図 14. 生活保護